

BUSICOM



BC-BS801D II Bluetooth 1Dバーコードリーダー ユーザーガイド



#SETUPE1

Enter Setup

免責事項

製品をご使用前に取扱説明書をよくお読みいただき、取扱説明書に従って操作してください。今後のご使用のために取扱説明書を大切に保管してください。

本体を解体したり、本体からラベルをはがしたりしないでください。その場合、株式会社ビジコムを保証の対象外となります。

この取扱説明書の写真は実際の製品と内容が異なる場合がございます。本製品の修正とアップデートについて、当社は、信頼性、性能、設計の改善のためソフトウェアまたはハードウェアをいつでも予告なくアップデートすることができます。ここで告知するアップデート情報は、事前告知を行わない変更が対象です。

この取扱説明書で説明する製品が当社またはサードパーティが著作権を有するソフトウェアが含まれている場合があります。お客様は個人または法人を問わず、著作権者から書面による同意を得ていない場合、当該ソフトウェアの全体または一部を流通、改造、逆コンパイル、逆アセンブル、解読、リバースエンジニアリング、貸与、譲渡またはサブライセンスが禁止されています。

この取扱説明書は著作権を有しております。当社から書面による許可を得ていない場合、方法を問わず内容の複製、流通または利用を禁止します。

当社は上記免責事項について最終的な解釈権を有しています。

株式会社ビジコム

<https://www.busicom.co.jp>

Copyright ©2023 BUSICOM Co., Ltd. All Rights Reserved.



#SETUPE0

Exit Setup

改訂履歴

バージョン	内容	改訂日
1.0.0	初版	2022年10月27日
1.0.1	免責事項の改定	2023年06月09日
1.0.2	キーストローク遅延20msの削除	2023年11月13日
1.0.3	CODE39最小読取桁数の変更	2024年04月01日





#SETUPE1

Enter Setup

目次

改訂履歴	3
目次	4
はじめに	12
概要	12
各章紹介	12
第1章 使用開始	12
BS80スキャナーの一般的特徴を説明します。	12
第2章 システム設定	12
第3章 USBインターフェース	12
USB通信のパラメータ設定方法について説明します。	12
第4章 ワイヤレス通信	12
第5章 シンボロジー	12
各種互換性のあるシンボロジー一覧と、関連するパラメータの設定方法について説明します。	12
第6章 データフォーマット	12
第7章 プリフィックス & サフィックス	12
第8章 バッチプログラミング	12
付録	12
工場出荷時のデフォルト仕様表と、よく使用するプログラミング用バーコードを網羅しています。	12
アイコンについて	13
第1章 使用開始	14
概要	14
パッケージ開梱	14
BS80 スキャナー	15
ボタン機能	16
バッテリーの充電	17
BS80 をスマートフォン/タブレットへ接続	18
LEDの表示	20
BS80のオフ/オフ	20
スキャン手順	21
1次元バーコードをスキャン	21



#SETUPE0

Exit Setup

第 2 章 システム設定	22
概要.....	22
バーコードプログラミング.....	22
コマンドプログラミング.....	22
プログラミングバーコード/プログラミングコマンド/機能.....	23
プログラミングコマンドの使用.....	23
プログラミングバーコードの使用.....	23
スキャナーの時間.....	24
タイムスタンプ.....	25
日時フォーマットを設定.....	25
電源オンブザー.....	26
読み取りブザー.....	27
読み取り音のブザーの長さ変更.....	28
読み取り音の周波数変更.....	29
読み取りの音量.....	30
バイブレーション.....	31
振動バイブレーション.....	31
スキャンモード.....	32
デコードセッションタイムアウト(センスモード時のみ有効).....	33
読み取りタイムアウト.....	34
GS1アプリケーション識別子 (AI) を括弧で囲む.....	36
GS1 アプリケーション識別子 (AI).....	37
GS1-128(UCC/EAN-128).....	38
GS1 Databar(RSS).....	38
GS1チェックキャラクタを送信.....	39
GS1-128(UCC/EAN-128).....	40
GS1 Databar(RSS).....	40
感度 (センサー).....	41
読み取りエラーメッセージ.....	42
読み取りエラーメッセージを設定.....	42
電源オフ.....	43
初期設定.....	43
工場出荷時設定.....	43





#SETUPE1

Enter Setup

カスタムデフォルト	44
製品情報をクエリ	45
製品名をクエリ	45
ファームウェアバージョンをクエリ	45
デコーダーバージョンをクエリ	45
Bluetoothバージョンをクエリ	46
ハードウェアバージョンをクエリ	46
製品シリアル番号をクエリ	46
OEMシリアル番号をクエリ	46
製造日をクエリ	46
データフォーマットバージョンをクエリ	47
バッテリー残量をクエリ	47
第3章 USB インターフェース	48
概要	48
USB HID キーボード	48
USB国別キーボードタイプ	49
Emulate ALT+Keypad	53
ファンクションキーマッピング	57
ASCII ファンクションキーマップ表	58
ASCII ファンクションキーマッピング表 (続き)	59
キーストローク間の遅延	61
Caps Lock	62
大文字/小文字の切り替え	63
テンキーをエミュレート	64
ポーリングレート	66
USB CDC	68
VID/PID	68
第4章 ワイヤレス通信	69
操作モード	69
スキャナーのペアリング情報をクリア	70
バッチモード (収集・蓄積)	71
バッチモードオプション	71
フラッシュメモリに保存したデータをクエリ/クリア	72



#SETUPE0

Exit Setup

同じバーコードの保存防止	73
バッチモード送信ディレイ	74
バッチモード用送信終了メッセージ	76
保存したデータを送信	77
自動電源オフタイムアウト	78
スキャナー名を設定	79
第 5 章 バーコード (シンボロジー)	80
概要	80
グローバル設定	80
全てのバーコード (シンボロジー) を有効化/無効化	80
Code 128	80
工場出荷時設定に戻す	80
Code 128を有効化/無効化	81
Code 128の桁数を設定	81
EAN-8	83
工場出荷時設定に戻す	83
EAN-8を有効化/無効化	83
チェックキャラクタを送信	83
2桁のアドオンコード	84
5桁のアドオンコード	85
アドオンコードをリクエスト	86
EAN-8をEAN-13へ変換	86
EAN-13	87
工場出荷時設定に戻す	87
EAN-13を有効化/無効化	87
チェックキャラクタを送信	87
2桁のアドオンコード	88
5桁のアドオンコード	89
290で始まるEAN-13バーコードのアドオンコードをリクエスト	90
378/379で始まるEAN-13バーコードのアドオンコードをリクエスト	91
414/419で始まるEAN-13バーコードのアドオンコードをリクエスト	92
434/439で始まるEAN-13バーコードのアドオンコードをリクエスト	93
977で始まるEAN-13バーコードのアドオンコードをリクエスト	94





#SETUPE1

Enter Setup

978で始まるEAN-13バーコードのアドオンコードをリクエスト	94
979で始まるEAN-13バーコードのアドオンコードをリクエスト	96
UPC-E	97
工場出荷時設定に戻す	97
UPC-Eを有効化/無効化	97
チェックキャラクタを送信	98
2桁のアドオンコード	98
5桁のアドオンコード	99
アドオンコードをリクエスト	100
プリアンブルキャラクタを送信	100
UPC-EからUPC-Aへ変換	101
UPC-A	102
工場出荷時設定に戻す	102
UPC-Aを有効化/無効化	102
チェックキャラクタを送信	102
2桁のアドオンコード	103
5桁のアドオンコード	104
アドオンコードをリクエスト	105
プリアンブルキャラクタを送信	105
インタリーブド 2 of 5	106
工場出荷時設定に戻す	106
インタリーブド 2 of 5を有効化/無効化	106
インタリーブド 2 of 5の桁数を設定	107
チェックキャラクタ検証	108
ITF-14	110
工場出荷時設定に戻す	110
ITF-14を有効化/無効化	110
ITF-6	111
工場出荷時設定に戻す	111
ITF-6を有効化/無効化	111
Code 39	113
工場出荷時設定に戻す	113
Code 39を有効化/無効化	113



#SETUPE0

Exit Setup

Code 39の桁数を設定	114
チェックキャラクタ検証	116
スタートキャラクタ/ストップキャラクタを送信	117
Code 39フルアスキーを有効化/無効化	117
Code 32 (イタリア製菓業界用コード)を有効化/無効化	117
Code 32 プリフィックス	119
Code 32 スタートキャラクタ/ストップキャラクタの送信	119
Code 32 チェックキャラクタを送信	120
Codabar	121
工場出荷時設定に戻す	121
Codabarを有効化/無効化	121
Codabarの桁数を設定	122
チェックキャラクタ検証	123
スタート/ストップキャラクタ	124
Code 93	125
工場出荷時設定に戻す	125
Code 93を有効化/無効化	125
Code 93の長さを設定	126
チェックキャラクタ検証	127
GS1-128 (UCC/EAN-128)	128
工場出荷時設定に戻す	128
GS1-128を有効化/無効化	128
GS1-128の桁数を設定	129
GS1 Databar (RSS)	131
工場出荷時設定に戻す	131
GS1 Databarを有効化/無効化	131
アプリケーション識別子 (01) を送信	131
ISBN	132
工場出荷時設定に戻す	132
ISBNを有効化/無効化	132
ISBNフォーマットを設定	132
ISSN	133
工場出荷時設定に戻す	133





#SETUPE1

Enter Setup

ISSNを有効化/無効化.....	133
インダストリアル25.....	134
工場出荷時設定に戻す.....	134
インダストリアル25を有効化/無効化.....	134
インダストリアル25の桁数を設定.....	135
チェックキャラクタ検証.....	136
スタンダード 25.....	138
工場出荷時設定に戻す.....	138
スタンダード 25の有効化/無効化.....	138
スタンダード25の桁数を設定.....	139
チェックキャラクタ検証.....	140
第6章 データフォーマット.....	141
概要.....	141
データフォーマットを追加.....	141
バーコードによるプログラミング.....	142
シリアルコマンドによるプログラミング.....	143
データフォーマットを有効化/無効化.....	145
非適合エラー通知ブザー.....	146
データフォーマット選択.....	147
データフォーマットをクリア.....	148
データフォーマットをクエリ.....	148
第7章 プリフィックス & サフィックス.....	150
概要.....	150
グローバル設定.....	150
全てのプリフィックス/サフィックスを有効化/無効化.....	150
プリフィックスシーケンス.....	151
カスタムプリフィックス.....	151
カスタムプリフィックスを有効化/無効化.....	151
カスタムプリフィックスを設定.....	151
AIM ID プリフィックス.....	153
Code IDプリフィックス.....	154
全てのデフォルトのCode IDを復元.....	155
Code IDを変更.....	155



#SETUPE0

Exit Setup

1次元シンボロジーのCode ID変更.....	156
カスタムサフィックス	159
カスタムサフィックスを有効化/無効化	159
カスタムサフィックスを設定.....	159
データパッキング.....	160
概要.....	160
データパッキングオプション.....	160
ストップキャラクタサフィックス.....	162
ストップキャラクタサフィックスを有効化/無効化	162
ストップキャラクタサフィックスを設定.....	162
付録.....	164
英数字バーコード.....	164
バーコードを保存/キャンセル.....	167
工場出荷時設定表.....	168
AIM ID 表.....	174
Code ID 表	175
シンボロジー ID 表.....	176
ASCII 表	177
Unicodeキーマップ	182





#SETUPE1

Enter Setup

はじめに

概要

この取扱説明書ではBS80ワイヤレスバーコードスキャナー（以下、「スキャナー」）の設定方法と使用法を詳しく説明します。

各章紹介

- | | |
|----------------------|--|
| 第1章 使用開始 | BS80スキャナーの一般的特徴を説明します。 |
| 第2章 システム設定 | BS80 スキャナーの3つの設定方法を紹介し、一般的なパラメータ設定について説明します。 |
| 第3章 USBインターフェース | USB通信のパラメータ設定方法について説明します。 |
| 第4章 ワイヤレス通信 | スキャナーとホスト機器間のワイヤレス通信に必要なパラメータ設定方法を説明します。 |
| 第5章 シンボロジー | 各種互換性のあるシンボロジー一覧と、関連するパラメータの設定方法について説明します。 |
| 第6章 データフォーマット | データフォーマットでスキャンデータをカスタマイズする方法を説明します。 |
| 第7章 プリフィックス & サフィックス | プリフィックスとサフィックスでスキャンデータをカスタマイズする方法について説明します。 |
| 第8章 バッチプログラミング | 複雑なプログラミングタスクを一つのバーコードへと統合する方法を説明します。 |
| 付録 | 工場出荷時のデフォルト仕様表と、よく使用するプログラミング用バーコードを網羅しています。 |



#SETUPE0

Exit Setup

アイコンについて



このアイコンは本書の関連事項を示しています。



このアイコンは使用者が注意すべきことを示しています。



このアイコンはスキャナーを簡単に操作、設定できる便利なヒントを示しています。



このアイコンは操作方法を覚えるのに役立つ実例を示しています。





#SETUPE1

Enter Setup

第1章 使用開始

概要

BS80は画像をキャプチャして1次元/2次元スキャンエンジン搭載で様々なニーズに対応可能なワイヤレスポケットバーコードスキャナーであり、忙しい職場や限られたスペースの職場用の大規模なサーバーです。また、スキャナーはBluetooth HID、SPP、BLE通信を利用することでiOS、Android、Windowsのデバイスに対応しています。

本章ではBS80スキャナーについてイラストを使って説明します。BS80スキャナーを手元にお持ちの場合、本取扱説明書内容をより具体的に理解することができます。本章の内容は一般ユーザー用、メンテナンススタッフ、およびソフトウェア開発者向けです。

パッケージ開梱

パッケージを開けてスキャナーと付属品を取り出します。パッケージリストの同梱物が全て揃っていて不備がないか確認します。損傷や不足がある場合、パッケージを保管の上、お買い上げになった販売店のアフターサービス担当へお早めにご連絡ください。



#SETUPE0

Exit Setup

BS80 スキャナー





#SETUPE1

Enter Setup

ボタン機能

SCANボタン
<p>*ボタンを押してバーコードをスキャンします。</p> <p>*ボタンを3秒間長押しするとスキャナーの電源がオンになります。</p>
Deleteボタン
<p>*以下のいずれかの状態でボタンを押すと、バーコードをスキャンして削除する前、フラッシュメモリから対応するデータを削除します。(i) Bluetoothモードが有効であるもののBluetooth接続がされない場合、(ii) Bluetoothモード & バッチ送信が有効な場合、(iii) USBモードが有効であるものの、USBケーブルが接続されていない場合、(iv) USBモード & バッチ送信が有効の場合。</p> <p>*ボタンを7秒間長押しするとスキャナーの電源がオフになります。</p>
ファンクションボタン
<p>*ボタンを押してBluetoothモードで接続しているiOSデバイスのHIDキーボードをオン/オフします。</p> <p>*以下のいずれかの状態でボタンを3秒間長押しと、データ送信を開始します。(i) Bluetoothモード & バッチ送信が有効な場合、(ii) USBが有効で、スキャナーがUSBケーブルを使ってPCに接続されている場合。</p>
SCANボタン+ファンクションボタン
<p>*2つのボタンを同時に3秒間長押しするとBluetoothモードとUSBモードが切り替わります。</p>
Deleteボタン+ファンクションボタン
<p>*2つのボタンを同時に押すとBluetoothモードでスキャナーとBluetoothデバイスとのペアリングを解除し、他のBluetoothデバイスからスキャナーを検索できるようになります。</p>
SCANボタン+Deleteボタン
<p>*2つのボタンを同時に押すと充電/バッテリーLEDでバッテリー残量を確認することができます。</p> <p>*以下のいずれかの状態で2つのボタンを同時に3秒間長押しすると、フラッシュメモリのすべてのデータを削除します。</p> <p>(i) BluetoothモードでBluetooth接続がされていて、バッチ送信とデータ送信確定のリクエストが有効な場合、(ii) USBモードが有効でUSBケーブルでコンピュータに接続されていてバッチ送信とデータ送信確定のリクエストが有効な場合、*ボタンを7秒間長押しするとスキャナーの電源がオフになります。</p>

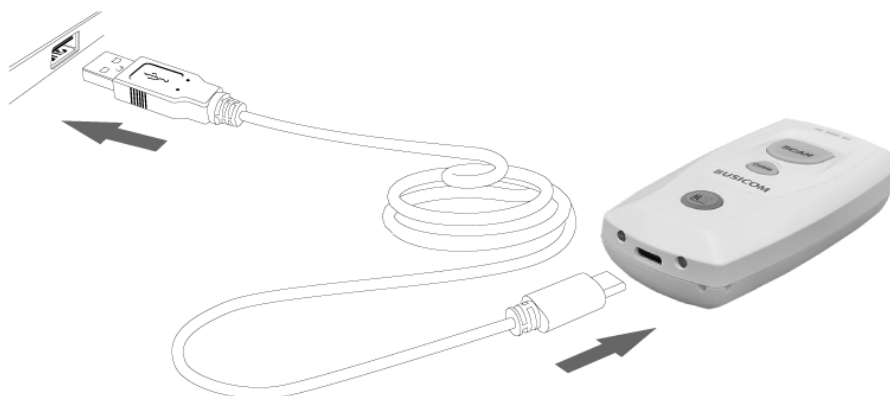


#SETUPE0

Exit Setup

バッテリーの充電

以下の図のように、Type Cケーブルでホスト機器に接続してスキャナーを充電します。



注意:バッテリー残量が少ないとエラーや誤操作を引き起こす可能性があります。ご使用前に3~4時間充電してください。操作前にスキャナーが完全に充電されていることを確認してください。





#SETUPE1

Enter Setup

BS80 をスマートフォン/タブレットへ接続

1. ご利用のデバイスがHID、SPP、BLEプロファイルに対応していることを確認します。
2. ご利用のスマートフォン/タブレットを節電モードに切り替えます。
3. スキャナーをスマートフォン/タブレットへ接続前に以下の適切なバーコードをスキャンしてHID、SPP、BLEプロファイルを選択します。



** HID



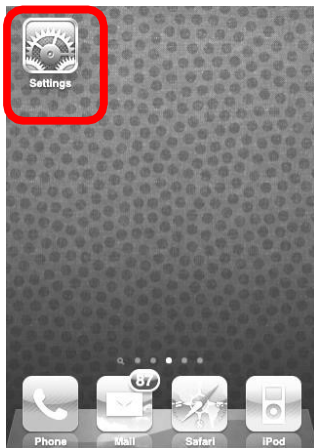
SPP



BLE

4. 以下の接続手順を完了します (例: iPhoneとペアリング)。

- (1) 「設定」をクリックします。



- (2) 「一般」をクリックします。



- (3) 「Bluetooth」をクリックします。



- (4) 電源をオンにして自分のiPhoneを探します。
- (5) 「BS80XXXX」を選択して接続します。



#SETUPE0

Exit Setup

(6) 「接続完了」と表示されてた接続されています。



5. 接続完了後、スキャナーに青いファンクションLEDが光ります。

6. WordPadファイルまたは関連アプリを使用前、デバイスではキーボードの言語設定が英語（アメリカ）に設定されています。次に、バーコードをスキャンすると現在のカーソル位置前にバーコードデータが表示されます。データがスマートフォン/タブレットへ送信できない場合、**Restore Factory Defaults（工場出荷時設定に戻す）** バーコードをスキャンしてください(第2章参照)。

注意: 本製品はBluetooth規格に準拠しています。本製品に接続するデバイスは同じSPP、HID、BLE規格へ準拠することが必要です。他のプロファイルへ対応している他のBluetoothデバイスについては、製品のテスト前の接続を保証することができません。

本製品の通信速度と距離は接続する製品とデバイス間の障害物の有無や電波の状態によって変わることがあります。また、ホスト機器の状態はスキャナーの通信速度と距離に影響する場合があります。





#SETUPE1

Enter Setup

LEDの表示

バッテリー LED	
赤色点灯	充電中です。
緑色点灯	充電完了です。
赤色点滅	バッテリー残量の低下警告。
スキャナーの電源がオンの場合、SCANボタンとDeleteボタンを同時に押すとバッテリー残量が充電/バッテリー LEDで表示されます。	
緑色点灯	バッテリー残量が高いです。
橙色点灯	バッテリー残量が半分です。
赤色点灯	バッテリー残量が少ないです。

バッテリーの残量が少ない場合、スキャナーがブザー音を鳴らして、充電/バッテリーLEDが点滅します。スキャナーが強制終了する前にすぐに充電してください。シャットダウンした場合、電源をオンにする前に完全に充電してください。

スキャンLED	
緑色のLEDが点滅	正常読取
データLED	
赤色点滅	本体メモリにデータがあります。
赤色点灯	本体メモリが不足しております。
ファンクションLED	
青色点滅 (遅)	Bluetoothモードが有効でペアリング待機中
青色点灯	Bluetooth接続が完了
青色点滅 (速)	Bluetoothペアリング済み データ送信中
赤色点灯	USBモードが有効
赤色点滅	USBモードで接続してバッチを送信する

BS80のオフ/オフ

#SETUPE0

Exit Setup

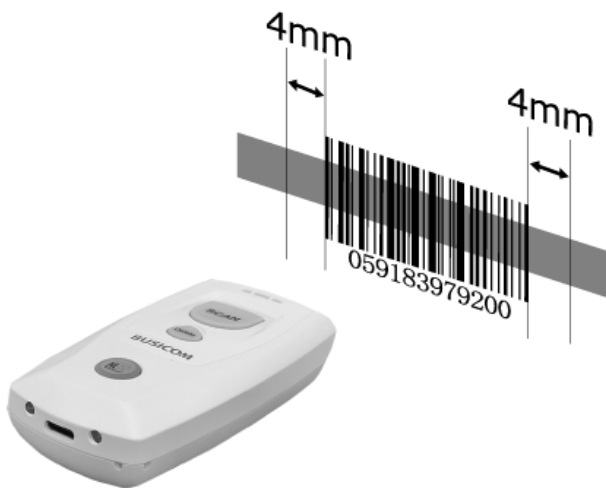
Turn the scanner on (スキャナーをオン) : SCANボタンを3秒間長押しします。

Turn the scanner off (スキャナーをオフ) : 初期設定で、スキャナーは30分間何も操作しない場合自動的にオフになります。電源オフタイマーを調節することができます。また、**Power Off (電源オフ)** バーコードをスキャンして電源をオフにすることもできます。詳しい情報は第2章の「自動/手動電源オフ」セクションをご覧ください。

スキャン手順

1次元バーコードをスキャン

バーコード間のスキャン角度(垂直のバーコードは読み取りません)または距離を調節して、下図のようにスキャンラインの長さがおおよそバーコードよりも必ず8mmほど長くなるようにします。



Right	Wrong





#SETUPE1

Enter Setup

第2章 システム設定

概要

スキャナーの設定方法は、バーコードプログラミング、コマンドプログラミング、EasySetプログラミングの3種類があります。

バーコードプログラミング

スキャナーはプログラミングバーコードをスキャンして設定することができます。次のセクションでは、ユーザーがプログラム可能な機能/オプションをプログラミングバーコード/コマンドと一緒に説明します。

このプログラミング方法が最も簡単です。しかし、手動でバーコードのスキャンが必要です。その結果、エラーが発生しやすくなります。

コマンドプログラミング

スキャナーはホスト機器から送信されるシリアルコマンドで設定することもできます。

ユーザーはアプリケーションプログラムを設計して、そのコマンド文字列をスキャナーへ送信し、デバイスの設定を実行できます。



#SETUPE0

Exit Setup

プログラミングバーコード/プログラミングコマンド/機能



上の図は設定機能に**Enter Setup (設定開始)** 機能用のプログラミングバーコードとプログラミングコマンドの例です。

1.No Case Conversionバーコードです。

2.No Case Conversionコマンドです。

3.機能/オプションの説明です。

** 工場出荷時の設定を表しています。

プログラミングコマンドの使用

バーコードプログラミングの方法以外に、スキャナーはホスト機器から受信するシリアルコマンド(HEX)で設定することもできます。コマンドは全て大文字で入力する必要があります。

プログラミングバーコードの使用

Enter Setup (設定開始) バーコードをスキャンするとスキャナーの設定モードを開始できます。続いてプログラミングバーコードの数字をスキャンして、スキャナーの設定を行うことができます。設定モードを終了する場合、**Exit Setup (設定終了)** バーコードまたは非プログラミングバーコードをスキャンするか、スキャナーを再起動します。



** Exit Setup (設定終了)



Enter Setup (設定開始)



Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

プログラミングバーコードのデータ（プログラミングバーコード下の文字など）はホスト機器に送信できます。下の適切なバーコードをスキャンして、プログラミングバーコードのデータのホスト機器への送信を有効化または無効化できます。



#SETUPT0

**** Do Not Transmit Programming Barcode Data**

(プログラミングバーコードデータを送信しない)



#SETUPT1

Transmit Programming Barcode Data

(プログラミングバーコードデータを送信する)

スキャナーの時間



@WLSTMS

**** Set Scanner Time**

(スキャナーの時間を設定)



@WLSTMQ

Query Scanner Time

(スキャナーの時間をクエリ)



#SETUPE0

Exit Setup

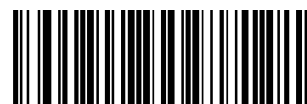
タイムスタンプ

タイムスタンプを有効化または無効化することで日時の送信するかしないかを選択できます。



@WLSTSE0

****Disable Time Stamp**
(タイムスタンプを無効化)



@WLSTSE1

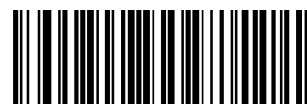
Enable Time Stamp
(タイムスタンプを有効化)

日時フォーマットを設定



@WLSTSF0

**** Format 1**
(YYYY/MM/DD,HH:MM:SS)



@WLSTSF1

Format 2
(DD/MM/YYYY,HH:MM:SS)



@WLSTSF2

Format 3
(MM/DD/YYYY,HH:MM:SS)



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

電源オンブザー

スキャナーは電源を入れるとブザーが鳴るようにプログラムできます。電源オン時のブザーが不要な方は **Off** バーコードをスキャンしてください。



@PWBENA1

** On



@PWBENA0

Off



#SETUPE0

Exit Setup

読み取りブザー

Off バーコードをスキャンするとデコード成功を表すブザーがオフになります。**On** バーコードをスキャンするとオンに戻ります。



@GRBENA1

** On



@GRBENA0

Off



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

読み取り音のブザーの長さ変更

このパラメータでは、スキャナーの読み取りブザーの長さを設定します。20msから300msまで、1ms単位で設定可能です。



@GRBDUR40

Short (短 : 40ms)



@GRBDUR80

** Medium (中 : 80ms)



@GRBDUR120

Long (長 : 120ms)



@GRBDUR

Custom (カスタム : 20 - 300ms)

Example

読み取り音のブザー時間を 200ms に設定する方法

1. Enter Setup バーコードをスキャンします。
2. Custom バーコードをスキャンします。
3. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「2」、「0」、「0」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションのSave バーコードをスキャンします。
5. Exit Setup バーコードをスキャンします。



#SETUPE0

Exit Setup

読み取り音の周波数変更

このパラメータでは、周波数を20Hzから20,000Hzまで1Hz単位でプログラムできます。初期設定は2620Hzです。



@GRBFRQ800

Extra Low (超低 : 800Hz)



@GRBFRQ1600

**Medium (中 : 2620Hz)



@GRBFRQ

Custom (カスタム : 20 - 20,000Hz)



@GRBFRQ1600

Low (低 : 1600Hz)



@GRBFRQ4200

High (高 : 4200Hz)

E
Example

読み取り音の周波数を2,000Hzに設定する方法

1. **Enter Setup**バーコードをスキャンします。
2. **Custom** バーコードをスキャンします。
3. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「2」、「0」、「0」、「0」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの**Save** バーコードをスキャンします。
5. **Exit Setup**バーコードをスキャンします。



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

読み取りの音量

音量を20段階（1～20）のパラメータからお好みで設定できます。



@GRBVLL20

** Loud (大音量)



@GRBVLL12

Medium (中音量)



@GRBVLL5

Low (低音量)



@GRBVLL

Custom(カスタム : 1-20)



#SETUPE0

Exit Setup

バイブレーション

振動バイブレーション



@GRVENA1
On



@GRVENA0
**Off



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

スキャンモード

- ◇ **Level Mode (レベルモード)** : トリガーを引っ張るとデコードセッションを開始します。バーコードがデコードされるか、トリガーを離すまでデコードセッションが続きます。
- ◇ **Sense Mode (センスモード)** : スキャナーはデコードセッションは周辺のイルミネーションが切り替わるのを検知するたびに、デコードセッションが有効化される前に手振れ補正タイムアウトが切れるまで待ちます。デコードセッションはバーコードがデコードされるか、デコードセッションタイムアウトが時間切れになると終了します。このモードでは、トリガーを引くとデコードセッションを有効化できます。**Timeout between Decodes (Same Barcode) (同じバーコードのデコード間タイムアウト)** は指定の時間内に同じバーコードの不要な再読取りを防止できます。**Sensitivity (感度)** はセンスモード時の画像キャプチャの感度を変更できます。
- ◇ **Continuous Mode (連続モード)** : スキャナーが次から次へと自動的にデコードセッションを開始します。トリガーを押すだけでバーコードの読み取りを中断または再開できます。**Timeout between Decodes (Same Barcode) (同じバーコードのデコード間タイムアウト)** は指定の時間内に同じバーコードの不要な再読取りを防止できます。



@SCNMOD0

** Level Mode (レベルモード)



@SCNMOD2

Sense Mode (センスモード)



@SCNMOD3

Continuous Mode (連続モード)



#SETUPE0

Exit Setup

デコードセッションタイムアウト(センスモード時のみ有効)

このパラメータはスキャンを試みる間継続するデコードセッションタイムアウトの最大時間を設定します。1msから3,600,000msまで、1ms単位で設定可能です。0に設定するとタイムアウトは無制限になります。初期設定は3000msです。



Decode Session Timeout (デコードセッションタイムアウト)

E xample

デコードセッションタイムアウトを1,500msに設定する方法

1. **Enter Setup**バーコードをスキャンします。
2. **Decode Session Timeout**バーコードをスキャンします。
3. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「1」、「5」、「0」、「0」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの**Save**バーコードをスキャンします。
5. **Exit Setup**バーコードをスキャンします。





#SETUPE1

Enter Setup

読み取りタイムアウト

読み取りタイムアウトは指定の時間内に同じバーコードを誤ってスキャンすることを防止します。この機能はセン
スモードと連続モードのみ適用できます。

Enable Reread Timeout (読み取りタイムアウトの有効化) : スキャナーが読み取りタイムアウトが時間切れになる前に二重読
み取りできなくなります。

Disable Reread Timeout (読み取りタイムアウトの無効化) : スキャナーは同じバーコードを二重読み取りできます。



@RRDENA1

Enable Reread Timeout

(読み取りタイムアウトの有効化)



@RRDENA0

****Disable Reread Timeout**

(読み取りタイムアウトの無効化)

以下のパラメータは同じバーコードを連続して読み取る際の時間間隔を設定します。0msから3,600,000msまで、
1ms単位で設定可能です。3000より大きな値に設定すると、プログラミングバーコードの読み取りタイムアウトは
3000msに制限されます。初期設定は1500msです。



@RRDDUR

Set Reread Timeout

(読み取りタイムアウトを設定)

E
example

読み取りタイムアウトを1,000msに設定する方法

1. **Enter Setup**バーコードをスキャンします。
2. **Timeout between Decodes (Same Barcode)** バーコードをスキャンします。
3. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「1」、「0」、「0」、「0」を
スキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの**Save** バーコードをスキャンします。
5. **Exit Setup**バーコードをスキャンします。



#SETUPE0

Exit Setup

読み取りタイムアウトが時間切れになる前に直前に読み取った同じバーコードを本体が二重読み取りしてしまう場合、読み取りタイムアウトを再設定できます。この機能を有効化する場合、**Reread Timeout Reset On**（読み取りタイムアウトのリセットをオン）バーコードを設定します。この機能は**Reread Timeout**が有効な場合のみ有効です。



@RRDREN1

Reread Timeout Reset On

(読み取りタイムアウトのリセットをオン)



@RRDREN0

**** Reread Timeout Reset Off**

(読み取りタイムアウトのリセットをオフ)



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

GS1アプリケーション識別子 (AI) を括弧で囲む

Surround GS1 AI's with Parentheses (GS1アプリケーション識別子 (AI) を括弧で囲む) を選択した場合、スキャンされたデータを含むアプリケーション識別子 (AI) は出力メッセージの括弧で囲まれます。



@GS1AIP0

**** Do Not Surround GS1 AI's with Parentheses**

(GS1アプリケーション識別子 (AI) を括弧で囲まない)

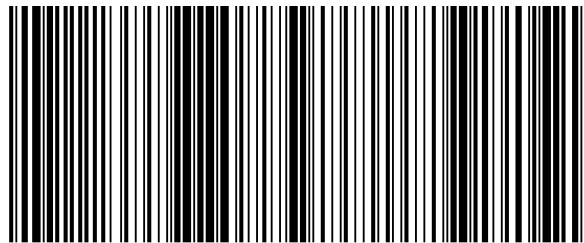


@GS1AIP1

Surround GS1 AI's with Parentheses

(GS1アプリケーション識別子 (AI) を括弧で囲む)

E
xample



(01) 0 0614141 99999 6 (10) 10ABCEDF123456

Surround GS1 AI's with Parentheses を選択した場合、上記のバーコードの出力内容は以下のとおりです。

(01)00614141999996(10)10ABCEDF123456

Do Not Surround GS1 AI's with Parentheses を選択した場合、上記のバーコードの出力内容は以下のとおりです。

01006141419999961010ABCEDF123456



#SETUPE0

Exit Setup

GS1 アプリケーション識別子 (AI)



@GS10AI0

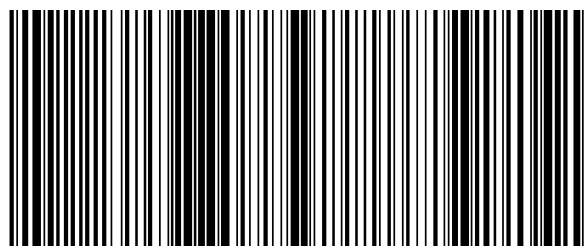
**** Disable GS1 Application Identifiers (AI's)**
(GS1 アプリケーション識別子 (AI)を無効化)



@GS10AI1

Enable GS1 Application Identifiers (AI's)
(GS1 アプリケーション識別子 (AI)を有効化)

E
xample



(01) 0 0614141 99999 6 (10) 10ABCDEF123456

Enable GS1 Application Identifiers (AI's) を選択した場合、上記のバーコードの出力内容は以下のとおりです。

01006141419999961010ABCDEF123456.

Disable GS1 Application Identifiers (AI's) を選択した場合、上記のバーコードの出力内容は以下のとおりです。

01006141419999961010ABCDEF123456



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

GS1-128(UCC/EAN-128)



@GS10A10

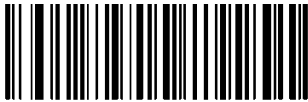
**** Do not Transmit GS1 Application Identifier (GS1 AIs)**
(GS1 アプリケーション識別子(GS1 AI)を送信しない)



@GS10A11

Transmit GS1 Application Identifier (GS1 AIs)
(GS1 アプリケーション識別子(GS1 AI)を送信する)

GS1 Databar(RSS)



@GS10AR0

**** 1191ABC**

Do not Transmit GS1 Application Identifier (GS1 AIs)
(GS1 アプリケーション識別子(GS1 AI)を送信しない)



@GS10AR1

Transmit GS1 Application Identifier (GS1 AIs)
(GS1 アプリケーション識別子(GS1 AI)を送信する)



#SETUPE0

Exit Setup

GS1チェックキャラクタを送信



@GS10CK0

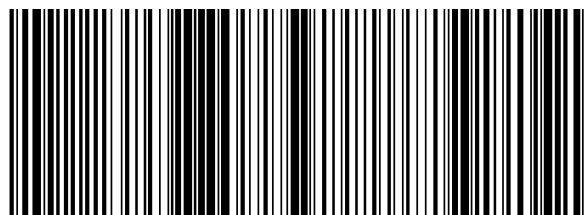
Do not transmit GS1 Check Character
(GS1チェックキャラクタを送信しない)



@GS10CK1

** Transmit GS1 Check Character
(GS1チェックキャラクタを送信する)

E
xample



(01) 0 0614141 99999 6 (10) 10ABCEDF123456

Transmit GS1 Check Character を選択した場合、上記のバーコードの出力内容は以下のとおりです。

s01006141419999961010ABCEDF123456

Do not Transmit GS1 Check Character を選択した場合、上記のバーコードの出力内容は以下のとおりです。

0100614141999991010ABCEDF123456



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

GS1-128(UCC/EAN-128)



@GS10C10

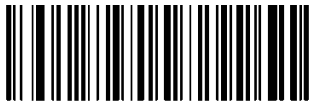
Do not Transmit GS1 Check character
(GS1チェックキャラクタを送信しない)



@GS10C11

**** Transmit GS1 Check character**
(GS1チェックキャラクタを送信する)

GS1 Databar(RSS)



@GS10CR0

Do not Transmit GS1 Check character
(GS1チェックキャラクタを送信しない)



@GS10CR1

**** Transmit GS1 Check character**
(GS1チェックキャラクタを送信する)



#SETUPE0

Exit Setup

感度 (センサー)

感度はキャプチャされた画像の変化に対するスキャナーの反応の感度を指定します。感度が高くなると、スキャナーをトリガーする画像変更の要件が低くなります。利用環境に応じた適切な感度を選択することができます。この機能はセンスモードのみ利用可能です。20段階から選択できます。初期設定は中感度 (11) です。



@SENLVL14

Low Sensitivity (低感度)



@SENLVL11

** Medium Sensitivity (中感度)



@SENLVL8

High Sensitivity (高感度)



@SENLVL5

Enhanced Sensitivity (感度を強化)



@SENLVL

Custom Sensitivity (カスタム感度 : レベル1-20)

E
xample

感度をレベル10に設定する方法

1. **Enter Setup**バーコードをスキャンします。
2. **Custom Sensitivity**バーコードをスキャンします。
3. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「1」、「0」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの**Save**バーコードをスキャンします。
5. **Exit Setup**バーコードをスキャンします。



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

読み取りエラーメッセージ

以下の適切なバーコードをスキャンして、トリガーを離す前にグッドリードがされなかった場合、デコードセッションタイムアウトが時間切れの場合、スキャナーが**Stop Scanning**コマンドを受信した場合に、読み取りエラーメッセージ（ユーザーがプログラム可能）を送信するか選択します（詳細は、本章の「シリアルトリガーコマンド」セクションを参照ください）。



@NGRENA0

** Bad Read Message OFF（読み取りエラーメッセージをオフ）



@NGRENA1

Bad Read Message ON（読み取りエラーメッセージをオン）

読み取りエラーメッセージを設定

読み取りエラーメッセージは、最大7文字（0x00～0xFFのHEX値）まで設定できます。読み取りエラーメッセージを設定する際、**Set Bad Read Message（読み取りエラーメッセージの設定）**バーコード、希望する文字のHEX値を表す英数字バーコード、および**Save**バーコードをスキャンします。初期設定は「NG」です。



@NGRSET

Set Bad Read Message

（読み取りエラーメッセージの設定）

E
example

読み取りエラーメッセージを「F」（HEX: 0x46）に設定する方法

1. **Enter Setup**バーコードをスキャンします。
2. **Set Bad Read Message**バーコードをスキャンします。
3. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「4」、「6」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの**Save**バーコードをスキャンします。
5. **Exit Setup**バーコードをスキャンします。



#SETUPE0

Exit Setup

電源オフ



@PWROFF

Power Off Scanner (スキャナーを電源オフ)

初期設定

工場出荷時設定

以下のバーコードをスキャンすると、本体を工場出荷時の状態に戻すことができます。以下に該当する場合、全てのパラメータを工場出荷時の設定に戻す必要がある可能性があります。

1. 本体が正しく設定されていないため、バーコードの読み取りに失敗する場合。
2. 以前の設定を忘れてしまい、それによる悪影響を防止したい場合。



@FACDEF

**Restore All Factory Defaults (全て工場出荷時設定に戻す)



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

カスタムデフォルト

Restore All Custom Defaults (全てカスタムデフォルトに戻す) バーコードをスキャンすると、すべてのパラメータをカスタムデフォルトにリセットできます。**Save as Custom Defaults** (カスタムデフォルトとして保存) バーコードをスキャンすると、現在の設定をカスタムデフォルトとして設定できます。

カスタムデフォルトは不揮発性メモリに保存されます。



@CUSSAV

Save as Custom Defaults (カスタムデフォルトとして保存)



@CUSDEF

Restore All Custom Defaults (全てカスタムデフォルトに戻す)



スキャナーを工場出荷状態に戻しても、カスタムデフォルトはスキャナーから削除されません。



#SETUPE0

Exit Setup

製品情報をクエリ

以下のバーコードをスキャンすると、製品情報（製品名、ファームウェアバージョン、デコーダーバージョン、ハードウェアバージョン、製品シリアル番号、OEMシリアル番号、製造日、データフォーマットバージョンなど）がホスト機器に送信されます。



@QRYSYS

Query Product Information（製品情報をクエリ）

製品名をクエリ



@QRYPDN

Query Product Name（製品名をクエリ）

ファームウェアバージョンをクエリ



@QRYFWV

Query Firmware Version

（ファームウェアバージョンをクエリ）

デコーダーバージョンをクエリ



@QRYDCV

Query Decoder Version

（デコーダーバージョンをクエリ）



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

Bluetoothバージョンをクエリ



#QRYBFW

Query Bluetooth Version

(Bluetoothバージョンをクエリ)

ハードウェアバージョンをクエリ



@QRYHWW

Query Hardware Version

(ハードウェアバージョンをクエリ)

製品シリアル番号をクエリ



@QRYPSN

Query Product Serial Number (製品シリアル番号をクエリ)

OEMシリアル番号をクエリ



@QRYESN

Query OEM Serial Number (OEMシリアル番号をクエリ)

製造日をクエリ



#SETUPE0

Exit Setup



@QRYDAT

Query Manufacturing Date (製造日をクエリ)

データフォーマットバージョンをクエリ



@QRYDFM

Query Data Formatter Version (データフォーマットバージョンをクエリ)

バッテリー残量をクエリ



@WLSQPW

Query Battery Level (バッテリー残量をクエリ)



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

第3章 USB インターフェース

概要

USB接続用のオプションは4種類あります。

- ◇ **USB HID Keyboard (USB HIDキーボード)** : スキャナーからの送信は、USBキーボード入力としてシミュレートされ、コマンド設定やドライバーは必要ありません。バーコードデータは仮想キーボードで直接入力でき、ホスト機器によるデータ受信にも便利です。
- ◇ **USB CDC**: USB-IFが定める標準的なUSB CDCクラスの仕様に準拠しており、シリアルポートと同じようにホスト機器がデータを受信することができます。この機能を使用する場合、ドライバーが必要です。

USB HID キーボード

スキャナーがホスト機器のUSBポートに接続されている場合、以下のバーコードをスキャンしてUSB HIDキーボード機能を有効化することができます。スキャナーからの送信はUSBキーボード入力としてシミュレートされます。ホスト機器は仮想キーボードでのキーストロークを受け付けます。プラグ&プレイのためドライバーは必要ではありません。



@INTERF3

USB HID Keyboard (USB HID キーボード)



ホスト機器がキーボード入力をできる場合、HIDキーボード入力用の追加のソフトウェアは必要ありません。



#SETUPE0

Exit Setup

USB国別キーボードタイプ

キーボード配置は国によって異なります。初期設定ではアメリカのキーボードに設定されています。



@KBWCTY0

**** U.S. (アメリカ、英語)**



@KBWCTY1

Belgium (ベルギー)



@KBWCTY2

Brazil (ブラジル)



@KBWCTY3

Canada (カナダ、フランス語)



@KBWCTY4

Czechoslovakia (チェコ)



@KBWCTY5

Denmark (デンマーク)



@KBWCTY6

Finland (フィンランド、スウェーデン語)



@KBWCTY7

French (フランス)



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup



@KBWCTY8

Germany/ Austria (オーストリア、ドイツ語)



@KBWCTY9

Greece (ギリシャ)



@KBWCTY10

Hungary (ハンガリー)



@KBWCTY11

Israel (イスラエル、ヘブライ語)



@KBWCTY12

Italy (イタリア)



@KBWCTY13

Latin America/ South America (ラテンアメリカ/南アメリカ)



@KBWCTY14

Netherlands (オランダ)



@KBWCTY15

Norway (ノルウェー)



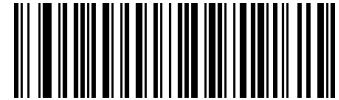
#SETUPE0

Exit Setup



@KBWCTY16

Poland (ポーランド)



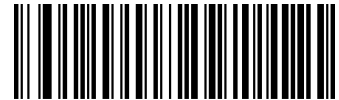
@KBWCTY18

Romania (ルーマニア)



@KBWCTY21

Slovakia (スロバキア)



@KBWCTY23

Sweden (スウェーデン)



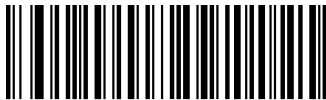
@KBWCTY17

Portugal (ポルトガル)



@KBWCTY19

Russia (ロシア)



@KBWCTY22

Spain (スペイン)



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup



@KBWCTY25

Turkey F (トルコ、Fタイプ)



@KBWCTY27

Britain (イギリス)



@KBWCTY24

Switzerland (スイス、ドイツ語)



@KBWCTY26

Turkey Q (トルコ、Qタイプ)



@KBWCTY28

Japan (日本)



#SETUPE0

Exit Setup

Emulate ALT+Keypad

Emulate ALT+Keypad をオンにすると、全ての文字はテンキーを経由して送信され、USBキーボードの国タイプは見落とされます。このモードは**Code Page Option**（コードページオプション）と**Unicode Output**（Unicode出力）の設定が必要です。コードページは対象の言語を決定します。**Unicode Output**はホスト機器へのASCII入力を決定します。



@KBWALTO

**** Emulate ALT+Keypad OFF**
(Emulate ALT+Keypadをオフ)



@KBWALT1

Emulate ALT+Keypad ON
(Emulate ALT+Keypadをオン)



ASCII 文字 (0x00~0x1F) ファンクションキーマッピングの設定に従って入力されます。



文字の送信にはキーボードエミュレーションが含まれるため、この方法は効率が良くない可能性があります。



Emulate ALT+Keypad がオン、**Unicode Encoding** がオフ、**Code Page 1252 (West European Latin)** が選択され、バーコードデータ「ADF」(65/208/70) は以下のように送信されます。

「A」 -- 「ALT Make」 + 「065」 + 「ALT Break」

「D」 -- 「ALT Make」 + 「208」 + 「ALT Break」

「F」 -- 「ALT Make」 + 「070」 + 「ALT Break」



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

コードページ

コードページとは、文字コードと文字の対応関係を定義したものです。受信したデータが適切な文字で表示されない場合、スキャンしたバーコードはホストプログラムが想定しているコードページとは異なるコードページで作成されていることが考えられます。このような場合は、以下の適切なバーコードをスキャンして、バーコードが作成されたコードページを選択してください。PDF417、QRコード、Aztecコード、データマトリックスの場合は、コードページの設定のほかに、第6章の「文字エンコード」セクションで文字エンコードを設定する必要があります。この機能は、**Emulate ALT+Keypad** がオンになっている場合のみ有効です。初期設定はCode Page 1252(西ヨーロッパ言語)です。



@KBWCPG0

** Code Page 1252 (西ヨーロッパ言語)



@KBWCPG1

Code Page 1251 (キリル語)



@KBWCPG2

Code Page 1250 (中央・東ヨーロッパ言語)



@KBWCPG3

Code Page 1253 (ギリシャ語)



@KBWCPG4

Code Page 1254 (トルコ語)



@KBWCPG5

Code Page 1255 (ヘブライ語)



#SETUPE0

Exit Setup



@KBWCPCG6
Code Page 1256 (アラビア語)



@KBWCPCG7
Code Page 1257 (バルト語)



@KBWCPCG8
Code Page 1258 (ベトナム語)



@KBWCPCG9
Code Page 936(簡体字中国語、GB2312、GBK)



@KBWCPCG10
Code Page 950 (繁体字中国語、Big5)



@KBWCPCG11
Code Page 874(タイ語)



@KBWCPCG12
Code Page 932 (日本語、シフトJIS)



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

Unicodeエンコード

ホストプログラムによっては、受信したバーコードデータの処理のため、異なる文字エンコードを使用する場合があります。例えば、Microsoft Office WordはUnicodeエンコードを使用しているため、**Unicode Encoding**をオンにする必要がありますが、Microsoft Office ExcelやNotepadはCode Pageエンコードを使用しているため、**Unicode Encoding**をオフにする必要があります。この機能は、**Emulate ALT+Keypad**がオンになっている場合のみ有効です。初期設定はオフです。



@KBWCPU0

** Off



@KBWCPU1

On

先行ゼロ付きキーボードエミュレーション

この機能をオンにすると、テンキーから送られてくる文字列を、先行ゼロ付きISO文字として送信することができます。例えば、ASCII Aは「ALT MAKE」 0065 「ALT BREAK」として送信されます。この機能は**Emulate ALT+Keypad**が有効な場合のみ使用できます。



@KBWALZ1

** On



@KBWALZ0

Off



#SETUPE0

Exit Setup

ファンクションキーマッピング

Ctrl+ASCII Mode を選択すると、制御文字（0x00～0x1F）がASCIIシーケンスとして送信されます。初期設定はオフです。



@KBWFKM0

** Disable (無効化)



@KBWFKM1

Ctrl+ASCII Mode



@KBWFKM2

Alt+Keypad Mode

Example

Ctrl+ASCII Modeが選択され、USB HID キーボードの他のパラメータが工場出荷時の設定になっている場合、バーコードデータ「A<HT>(例：水平タブ)F」(0x41/0x09/0x46)が以下のように送信されます。

“A” - Keystroke “A”.

<HT> - “Ctrl Make” + Keystroke “I” + “Ctrl Break”

“F” - Keystroke “F”

一部のテキストエディターでは、「Ctrl I」はイタリック変換を意味します。そのため、出力は「AF」になることがあります。

Alt+Keypad Modeが選択され、USB HID キーボードの他のパラメータが工場出荷時の設定である場合、上記のデータは以下のように送信されます。

“A” - Keystroke “A”.

<HT> - “Alt Make” + Keystrokes “009” + “Alt Break”

“F” - Keystroke “F”



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

ASCII ファンクションキーマップ表

ASCII 制御文字略号	ASCII コード(HEX 値)	ファンクションキーマッピング無効化	Ctrl + ASCII
NUL	00	Null	Ctrl+ @
SOH	01	Keypad Enter	Ctrl+ A
STX	02	Caps Lock	Ctrl+ B
ETX	03	ALT	Ctrl+ C
EOT	04	Null	Ctrl+ D
ENQ	05	CTRL	Ctrl+ E
ACK	06	Null	Ctrl+ F
BEL	07	Enter	Ctrl+ G
BS	08	左矢印	Ctrl+ H
HT	09	水平タブ	Ctrl+ I
LF	0A	下矢印	Ctrl+ J
VT	0B	垂直タブ	Ctrl+ K
FF	0C	Delete	Ctrl+ L
CR	0D	Enter	Ctrl+ M
SO	0E	Insert	Ctrl+ N
SI	0F	Esc	Ctrl+ O
DLE	10	F11	Ctrl+ P
DC1	11	Home	Ctrl+ Q
DC2	12	PrintScreen	Ctrl+ R
DC3	13	Backspace	Ctrl+ S



#SETUPE0

Exit Setup

DC4	14	tab+shift	Ctrl+ T
NAK	15	F12	Ctrl+ U
SYN	16	F1	Ctrl+ V
ETB	17	F2	Ctrl+ W
CAN	18	F3	Ctrl+ X
EM	19	F4	Ctrl+ Y
SUB	1A	F5	Ctrl+ Z
ESC	11	F6	Ctrl+ [
FS	1C	F7	Ctrl+ \
GS	1D	F8	Ctrl+]
RS	1E	F9	Ctrl+ 6
US	1F	F10	Ctrl+ -

ASCII ファンクションキーマッピング表 (続き)

上の表の最後の5文字 (0x1B~0x1F) は、USキーボード配列にのみ適用されます。次の表は、他の国でこれらの5文字に相当するものを示しています。

国名	Ctrl+ASCII					
アメリカ	Ctrl +[Ctrl+\	Ctrl+]	Ctrl+6	Ctrl +-	
ベルギー	Ctrl +[Ctrl+<	Ctrl+]	Ctrl+6	Ctrl +-	
スウェーデン	Ctrl +8	Ctrl+<	Ctrl+9	Ctrl+6	Ctrl +-	
フランス	Ctrl +^	Ctrl+8	Ctrl+\$	Ctrl+6	Ctrl +=	
ドイツ		Ctrl+Ã	Ctrl++	Ctrl+6	Ctrl +-	





#SETUPE1

Enter Setup

イタリア		Ctrl+\	Ctrl++	Ctrl+6	Ctrl +-	
スイス		Ctrl+<	Ctrl+..	Ctrl+6	Ctrl +-	
イギリス	Ctrl +[Ctrl+ ¢	Ctrl+]]	Ctrl+6	Ctrl +-	
デンマーク	Ctrl +8	Ctrl+\	Ctrl+9	Ctrl+6	Ctrl +-	
ノルウェー	Ctrl +8	Ctrl+\	Ctrl+9	Ctrl+6	Ctrl +-	
スペイン	Ctrl +[Ctrl+\	Ctrl+]]	Ctrl+6	Ctrl +-	



#SETUPE0

Exit Setup

キーストローク間の遅延

このパラメータは、エミュレートされたキーストローク間の遅延を指定します。以下のバーコードをスキャンすると
ホスト機器がゆっくり送信する必要がある場合に遅延させることができます。



@KBWDLY0

No Delay (遅延なし)



@KBWDLY40

****Long Delay (長 : 40ms)**



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

Caps Lock

Caps Lock ON (Caps Lockをオン) オプションでバーコードデータに含まれている大文字と小文字を変換できます。

変換はホスト機器のキーボードのCaps Lockキーの状態に関係なく発生します。



@KBWCAP0

** Caps Lock OFF

(Caps Lockをオフ、日本語ではないキーボード)



@KBWCAP1

Caps Lock ON (Non-Japanese keyboard)

(Caps Lockをオン、(日本語ではないキーボード))



@KBWCAP2

Caps Lock OFF (Japanese keyboard)

(Caps Lockをオフ、日本語のキーボード)



@KBWCAP3

Caps Lock ON (Japanese keyboard)

(Caps Lockをオン、(日本語のキーボード))



EmulEmulatEmuEmulate ALT+Keypad ON/ Convert All to Upper Case/ Convert All to Lower Case の

各バーコードは**Caps Lock ON**を優先します。



Caps Lock ON機能を選択している場合、バーコードデータ「AbC」は「aBc」として送信されます。



#SETUPE0

Exit Setup

大文字/小文字の切り替え

以下の適切なバーコードをスキャンすると、すべてのバーコードデータを大文字または小文字に変換できます。



@KBWCAS0

** No Case Conversion (変換なし)



@KBWCAS1

Convert All to Upper Case (全て大文字へ変換)



@KBWCAS2

Convert All to Lower Case (全て小文字へ変換)

E
Example

Convert All to Lower Case機能が有効な場合、バーコードデータ「AbC」は「abc」として送信されます。



Emulate ALT+Keypad ONを選択した場合、Convert All to Lower CaseおよびConvert All to Upper Caseは機能しません。



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

テンキーをエミュレート



Do Not Emulate Numeric Keypad 1 (テンキーをエミュレートしない1) : 数字 (0~9) の送信は、メインキーボードのキーストロークとしてエミュレートされます。

Emulate Numeric Keypad 1 (テンキーをエミュレートする1) : 数字 (0~9) の送信を、テンキーのキーストロークとしてエミュレートします。模擬テンキーのNum Lockの状態は、ホスト機器のNum Lockの状態によって決まります。ホスト機器のNum Lockがオフになっている場合、模擬テンキーの出力は数字キーではなくファンクションキーになります。

Do Not Emulate Numeric Keypad 2 (テンキーをエミュレートしない2) : 「+」、「-」、「*」、「/」の送信は、メインキーボードのキーストロークとしてエミュレートされます。

Emulate Numeric Keypad 2 (テンキーをエミュレートする2) : 「+」、「-」、「*」、「/」の送信は、テンキー上のキーストロークとしてエミュレートされます。



@KBVNUM0

**** Do Not Emulate Numeric Keypad 1 (テンキーをエミュレートしない1)**



@KBWNUM1

Emulate Numeric Keypad 1 (テンキーをエミュレートする1)



#SETUPE0

Exit Setup



@KBWNCH0

**** Do Not Emulate Numeric Keypad 2 (テンキーをエミュレートしない2)**



@KBWNCH1

Emulate Numeric Keypad 2 (テンキーをエミュレートする2)



Emulate ALT+Keypad ONは**Emulate Numeric Keypad**を優先します。

E
sample

Emulate Numeric Keypad 1と**Emulate Numeric Keypad 2**が有効である場合を想定します。

ホスト機器のNum LockがONの場合、「A4.5」は「A4.5」として送信されます。

ホスト機器のNum LockがOFFの場合、「A4.5」は「.A」として送信されます。

1. テンキーに含まれていないため、「A」が送信されます。
2. 「4」がファンクションキー「左へカーソル移動」として送信されます。
3. メインキーボードに「・」が送信されます。
4. 「5」はどのファンクションキーにも対応していないため、送信されません。

ホスト機器は最終的に「A」を受信します。



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

ポーリングレート

このパラメータはUSBキーボードのポーリングレートを指定します。ホスト機器が文字をドロップする場合、ポーリングレートを大きな値へ変更します。



@KBWPOR0

1ms



@KBWPOR1

2ms



@KBWPOR2

3ms



@KBWPOR3

** 4ms



@KBWPOR4

5ms



@KBWPOR5

6ms



@KBWPOR6

7ms



#SETUPE0

Exit Setup



@KBWPOR7
8ms



@KBWPOR8
9ms



@KBWPOR9
10ms



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

USB CDC

スキャナーがホスト機器のUSBポートに接続されている場合、ホスト機器はUSB CDC機能のおかげでシリアルポートと同じ方法でデータを受信できます。この機能を使用する場合、ドライバーが必要です。当社オフィシャルサイト (www.busicom.com) からドライバーをダウンロードできます。



@INTERF8

USB CDC

VID/PID

USBでは、VID（ベンダーID）とPID（製品ID）を用いてデバイスの識別、位置特定を行います。VIDは、USBインプリメンターズ・フォーラムによって割り当てられます。VIDは1EAB（Hex）です。当社の各製品には、さまざまなPIDが使用されています。各PIDには、ベースナンバーとインターフェースタイプ（キーボード、COMポートなど）が含まれています。

製品	インターフェース	PID (Hex)	PID (Dec)
BC-BS801D-V2-CW	USB HID キーボード	1322	4898
	USB CDC	0C06	3078



#SETUPE0

Exit Setup

第4章 ワイヤレス通信

操作モード



@INTERF10
**Bluetooth HID



@INTERF9
Bluetooth SPP



@INTERF11
Bluetooth BLE



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

スキャナーのペアリング情報をクリア



@WLSCLP

Clear Pairing Info on Scanner (スキャナーのペアリング情報をクリア)



#SETUPE0

Exit Setup

バッチモード (収集・蓄積)

バッチモードオプション

Off (オフ) : スキャナーは、スキャンしたバーコードごとに送信を試みます。サービス範囲外の場合、スキャンしたデータは失われます。

Automatic Batch Mode (自動バッチモード) : サービス範囲内にある場合、スキャナーはスキャンした全てのバーコードの送信を試みます。範囲外の場合、スキャナーはスキャンしたデータをフラッシュメモリに保存します。サービス範囲に戻ると、スキャナーは保存されたデータを自動送信し、送信完了後にフラッシュメモリからデータを削除します。

Manual Batch Mode (手動バッチモード) : スキャンしたデータは、サービス範囲内外を問わずフラッシュメモリに保存されます。保存されたデータは、**Transmit Stored Data** バーコードをスキャンしてホスト機器に送信できます。送信後の保存データの自動消去機能がオンになっている場合、スキャナーは送信後にフラッシュメモリから保存データを自動的に削除します。



@WLSBAT0
** Off (オフ)



@WLSBAT1
Automatic Batch Mode (自動バッチモード)



@WLSBAT2
Manual Batch Mode (手動バッチモード)



#SETUPE0
Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

フラッシュメモリに保存したデータをクエリ/クリア



@WLSQFC

Query the Number of Stored Barcodes

(保存したバーコード数をクエリ)



@WLSCLF

Clear All Stored Data

(保存したデータを全てクリア)



#SETUPE0

Exit Setup

同じバーコードの保存防止

この機能は、自動または手動バッチモードでバーコードをスキャンしているときのみ使用できます。

On (オン) : フラッシュメモリに存在するバーコードに遭遇した場合、スキャナーはデータを破棄し、エラーのブザー音を発します。

Off (オフ) : スキャナーは、フラッシュメモリに存在するバーコードに遭遇した場合もデータを保存します。



@WLSSE0
** Off (オフ)



@WLSSE1
On (オン)



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

バッチモード送信遅延

フラッシュメモリに保存した複数のバーコードをホスト機器に送信するとき、それらのバーコードの送信が速すぎてアプリケーションが処理できないことがあります。バーコード間の送信遅延をプログラムするには、以下のいずれかの遅延用バーコードをスキャンします。



@WLSBTD0

**** No Transmit Delay (なし : 0ms)**



@WLSBTD50

Short Transmit Delay (短 : 50ms)



@WLSBTD100

Medium Transmit Delay (中 : 100ms)



@WLSBTD150

Long Transmit Delay (長 : 150ms)



@WLSBTD

Custom Transmit Delay (カスタム : 0-10,000ms)



#SETUPE0

Exit Setup

E xample

バッチモード送信遅延を200msに設定する方法

1. **ter Setup** バーコードをスキャンします。
2. **stom Transmit Delay** バーコードをスキャンします。
3. の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「2」、「0」、「0」をスキャンします。
4. の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの**Save** バーコードをスキャンします。
5. **it Setup** バーコードをスキャンします。



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

バッチモード用送信終了メッセージ

以下のバーコードをスキャンして、保存されているすべてのデータの送信が終了したことをホスト機器に通知する送信終了メッセージ（ユーザープログラム可能）を送信するかを選択することができます。この機能は、手動モード選択時に手動で開始されたデータ送信にのみ使用できます。



@WLSBTT0

**** End of Transmission Message Off**

(バッチモード用送信終了メッセージをオフ)



@WLSBTT1

End of Transmission Message On

(バッチモード用送信終了メッセージをオン)

送信終了メッセージは、最大10文字（HEX値：0x00～0xFF）です。送信終了メッセージの設定は、**Set End of Transmission Message**（バッチモード用送信終了メッセージを設定）バーコード、希望する文字の16進数値を表す数字バーコード、および**Save**バーコードをスキャンします。初期設定は「EOT」です。



@WLSBTC

Set End of Transmission Message（バッチモード用送信終了メッセージを設定）

Example

送信終了メッセージを「END」（HEX: 0x45, 0x4E, 0x44）に設定する方法

1. **Enter Setup**バーコードをスキャンします。
2. **Set End of Transmission Message**バーコードをスキャンします。
3. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「4」、「5」、「4」、「E」、「4」、「4」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの**Save**バーコードをスキャンします。
5. **Exit Setup**バーコードをスキャンします。



#SETUPE0

Exit Setup

保存したデータを送信

以下のバーコードを読み取ると、フラッシュメモリに保存しているデータをホストへ送信することができます。この機能は、手動バッチモードでのみ使用できます。



@WLSST

Transmit Stored Data (保存したデータを送信)

以下の適切なバーコードをスキャンして送信後、フラッシュメモリに保存したデータをクリアするかそのまま保存するか選択することができます。この機能は手動バッチモードでのみ利用可能です。



@WLSCLE0

**** Off (オフ)**



@WLSCLE1

On (オン)



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

自動電源オフタイムアウト

自動電源オフタイムアウトは、スキャナーが非アクティブ状態から自動的に電源オフするまでの時間を設定します。



@WLSAPO0

5 Minutes (5分)



@WLSAPO2

20 Mintues (20分)



@WLSAPO4

60 Minutes (60分)



@WLSAPO1

10 Minutes (10分)



@WLSAPO3

**30 Mintues (30分)



@WLSAPO5

Disable Auto Power-off
(自動電源オフを無効化)



#SETUPE0

Exit Setup

スキャナー名を設定

以下のバーコードを読み取ると、スキャナーの名前を設定することができます。最大長さは5文字（HEX値0x20～0x7E）です。

スキャナー名の初期設定は「00000」です。



Scanner Name (スキャナー名)

E
xample

スキャナー名を「0AB00」に設定する方法

1. **Enter Setup** バーコードをスキャンします。
2. **Scanner Name** バーコードをスキャンします。
3. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「3」、「0」、「4」、「1」、「4」、「2」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの **Save** バーコードをスキャンします。
5. **Exit Setup** バーコードをスキャンします。





#SETUPE1

Enter Setup

第5章 バーコード (シンボロジー)

概要

すべてのシンボロジー (バーコードタイプ) には、独自の属性があります。本章では、スキャナーがさまざまなシンボロジーを識別できるように設定するためのプログラミングバーコードについて説明します。スキャナーの性能向上のため、ほとんど使用しない機能を無効化することをお勧めします。

グローバル設定

全てのバーコード (シンボロジー) を有効化/無効化

Disable All Symbologies (全てのシンボロジーを無効化) 機能を有効すると、スキャナーはプログラミングバーコード以外のバーコードを読み取ることができなくなります。



@ALLENA1

Enable All Symbologies

(全てのシンボロジーを有効化)



@ALLENA0

Disable All Symbologies

(全てのシンボロジーを無効化)

Code 128

工場出荷時設定に戻す



@128DEF

Restore the Factory Defaults of Code 128

(Code 128を工場出荷時設定に戻す)



#SETUPE0

Exit Setup

Code 128を有効化/無効化



@128ENA1

** Enable Code 128 (Code 128を有効化)



@128ENA0

Disable Code 128 (Code 128を無効化)



スキャナーがCode 128バーコードを 特定できない場合、**Enter Setup** バーコードをスキャン後、**Enable Code 128**をスキャンして問題を解決する必要があります。

Code 128の桁数を設定

Code 128の最小桁数と最大桁数の変更が行えます。これを行うと指定されていない桁数の読み取りは行えなくなります。



@128MIN

Set the Minimum Length (最小設定 初期設定: 1)



@128MAX

Set the Maximum Length (最大設定 初期設定: 48)



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup



最小桁数が最大桁数より大きく設定されている場合、スキャナーは最小桁数または最大桁数のいずれかを持つCode 128バーコードしか読み取りが行えません。最小桁数と最大桁数が同じ場合、その長さのCode 128バーコードしかデコードしません。



スキャナーが8～12文字のCode 128バーコードをデコードするように設定する方法

1. **Enter Setup**バーコードをスキャンします。
2. **Set the Minimum Length**バーコードをスキャンします。
3. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの**Save**バーコードをスキャンします。
5. **Set the Maximum Length**バーコードをスキャンします。
6. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの**Save**バーコードをスキャンします。
8. **Exit Setup**バーコードをスキャンします。



#SETUPE0

Exit Setup

EAN-8

工場出荷時設定に戻す



@EA8DEF

Restore the Factory Defaults of EAN-8 (EAN-8の工場出荷時設定に戻す)

EAN-8を有効化/無効化



@EA8ENA1

** Enable EAN-8 (EAN-8を有効化)



@EA8ENA0

Disable EAN-8 (EAN-8を無効化)



スキャナーがEAN-8バーコードを特定できない場合、**Enter Setup** バーコードをスキャン後、**Enable EAN-8**バーコードをスキャンして問題を解決する必要があります。

チェックキャラクタを送信

EAN-8は長さが8桁であり、末尾の1文字はデータの整合性を検証するチェックキャラクタです。



@EA8CHK2

** Transmit EAN-8 Check Character (EAN-8のチェックキャラクタを送信する)



@EA8CHK1

Do Not Transmit EAN-8 Check Character (EAN-8のチェックキャラクタを送信しない)



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

2桁のアドオンコード

EAN-8バーコードは2桁のアドオンコードで増強され、新たに形成できます。以下の例の場合、青い点線で囲まれた箇所が EAN-8バーコードであり、赤い点線で囲まれた箇所が2桁のアドオンコードです。



@EA8AD20

** Disable 2-Digit Add-On Code (2桁のアドオンコードを無効化)



@EA8AD21

Enable 2-Digit Add-On Code (2桁のアドオンコードを有効化)



Disable 2-Digit Add-On Code (2桁のアドオンコードを無効化) :EAN-8に2桁のアドオンコードが付属している場合、スキャナーはEAN-8 バーコードをデコードし、アドオンコードを無視します。2桁のアドオンコードがないEAN-8バーコードもデコードすることができます。

Enable 2-Digit Add-On Code (2桁のアドオンコードを有効化) :Tスキャナーは2桁のアドオンコードがあるEAN-8バーコードとアドオンコードがないEAN-8バーコードのどちらもデコードします。



#SETUPE0

Exit Setup

5桁のアドオンコード

EAN-8バーコードは5桁のアドオンコードで増強され、新たに形成できます。以下の例の場合、青い点線で囲まれた箇所がEAN-8バーコードであり、赤い点線で囲まれた箇所が5桁のアドオンコードです。



** Disable 5-Digit Add-On Code (5桁のアドオンコードを無効化)



Enable 5-Digit Add-On Code (5桁のアドオンコードを有効化)



Disable 5-Digit Add-On Code (5桁のアドオンコードを無効化) : EAN-8に5桁のアドオンコードが付属している場合、スキャナーはEAN-8 バーコードをデコードし、アドオンコードを無視します。5桁のアドオンコードがないEAN-8バーコードもデコードすることができます。

Enable 5-Digit Add-On Code (5桁のアドオンコードを有効化) : スキャナーは5桁のアドオンコードがあるEAN-8バーコードとアドオンコードがないEAN-8バーコードのどちらも読み取ります。





#SETUPE1

Enter Setup

アドオンコードをリクエスト

EAN-8 Add-On Code Required (EAN-8のアドオンコードをリクエスト) を選択すると、スキャナーはアドオンコード付きのEAN-8バーコードのみ読み取ります。



@EA8REQ0

**** EAN-8 Add-On Code Not Require**
(EAN-8のアドオンコードをリクエストしない)



@EA8REQ1

EAN-8 Add-On Code Required
(EAN-8のアドオンコードをリクエストする)

EAN-8をEAN-13へ変換

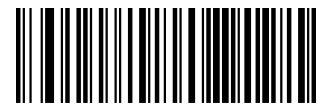
Convert EAN-8 to EAN-13 (EAN-8からEAN-13へ変換) : EAN-8のデコードデータを送信前にEAN-13形式へ変換します。変換後、データはEAN-13形式に準拠し、EAN-13のプログラミングの選択 (チェックキャラクタなど) に影響を受けません。

Do Not Convert EAN-8 to EAN-13 (EAN-8からEAN-13へ変換しない) : EAN-8のデコードデータは変換されず、EAN-8形式で送信されます。



@EA8EXP0

**** Do Not Convert EAN-8 to EAN-13** (EAN-8からEAN-13へ変換しない)



@EA8EXP1

Convert EAN-8 to EAN-13 (EAN-8からEAN-13へ変換する)



#SETUPE0

Exit Setup

EAN-13

工場出荷時設定に戻す



@E13DEF

Restore the Factory Defaults of EAN-13 (EAN-13の工場出荷時設定に戻す)

EAN-13を有効化/無効化



@E13ENA1

** Enable EAN-13 (EAN-13を有効化)



@E13ENA0

Disable EAN-13 (EAN-13を無効化)



スキャナーがEAN-13バーコードを特定できない場合、**Enter Setup** バーコードをスキャン後、**Enable EAN-13**バーコードをスキャンして問題を解決する必要があります。

チェックキャラクタを送信



@E13CHK2

** Transmit EAN-13 Check Character (EAN-13チェックキャラクタを送信する)



@E13CHK1

Do Not Transmit EAN-13 Check Character (EAN-13チェックキャラクタを送信しない)



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

2桁のアドオンコード

EAN-13バーコードは2桁のアドオンコードで増強され、新たに形成できます。以下の例の場合、青い点線で囲まれた箇所が EAN-13バーコードであり、赤い点線で囲まれた箇所が2桁のアドオンコードです。



@E13AD20

** Disable 2-Digit Add-On Code (2桁のアドオンコードを無効化)



@E13AD21

Enable 2-Digit Add-On Code (2桁のアドオンコードを有効化)



Disable 2-Digit Add-On Code (2桁のアドオンコードを無効化) : EAN-13に2桁のアドオンコードが付属している場合、スキャナーはEAN-13 バーコードをデコードし、アドオンコードを無視します。2桁のアドオンコードがないEAN-13バーコードもデコードすることができます。

Enable 2-Digit Add-On Code (2桁のアドオンコードを有効化) : スキャナーは2桁のアドオンコードがあるEAN-13バーコードとアドオンコードがないEAN-13バーコードのどちらもデコードします。



#SETUPE0

Exit Setup

5桁のアドオンコード

EAN-13バーコードは5桁のアドオンコードで増強され、新たに形成できます。以下の例の場合、青い点線で囲まれた箇所がEAN-13バーコードであり、赤い点線で囲まれた箇所が5桁のアドオンコードです。



** Disable 5-Digit Add-On Code (5桁のアドオンコードを無効化)



Enable 5-Digit Add-On Code (5桁のアドオンコードを有効化)



Disable 5-Digit Add-On Code (5桁のアドオンコードを無効化) : EAN-13に5桁のアドオンコードが付属している場合、スキャナーはEAN-13バーコードをデコードし、アドオンコードを無視します。5桁のアドオンコードがないEAN-13バーコードもデコードすることができます。

Enable 5-Digit Add-On Code (5桁のアドオンコードを有効化) : スキャナーは5桁のアドオンコードがあるEAN-13バーコードとアドオンコードがないEAN-13バーコードのどちらも読み取ります。





#SETUPE1

Enter Setup

アドオンコードをリクエスト

EAN-13 Add-On Code Required (EAN-13のアドオンコードをリクエスト) を選択すると、スキャナーはアドオンコード付きのEAN-13バーコードのみ読み取ります。



@E13REQ0

**** EAN-13 Add-On Code Not Required**
(EAN-13のアドオンコードをリクエストしない)



@E13REQ1

EAN-13 Add-On Code Required
(EAN-13のアドオンコードをリクエストする)

290で始まるEAN-13バーコードのアドオンコードをリクエスト

この設定は、「290」で始まるEAN-13バーコードにアドオンコード（2桁または5桁）をリクエストするようにスキャナーをプログラムします。以下の設定をプログラムできます。

Require Add-On Code (アドオンコードをリクエストする) :EAN-13バーコードが全て「290」で始まる場合、2桁または5桁のアドオンコードをリクエストします。アドオンコード付きのEAN-13バーコードが送信されます。必要なアドオンコードが見つからない場合、EAN-13バーコードは破棄されます。

Do Not Require Add-On Code (アドオンコードをリクエストしない) : **Require Add-On Code** を選択後、この機能を無効化する場合、**Do Not Require Add-On Code** をスキャンします。EAN-13バーコードが「Add-On Code Required」機能の選択に応じて処理されます



@E132900

**** Do Not Require Add-On Code (アドオンコードをリクエストしない)**



@E132901

Require Add-On Code (アドオンコードをリクエストする)



#SETUPE0

Exit Setup

378/379で始まるEAN-13バーコードのアドオンコードをリクエスト

この設定は、「378」または「379」で始まるEAN-13バーコードにアドオンコード（2桁または5桁）をリクエストするようにスキャナーをプログラムします。以下の設定をプログラムできます。

Require Add-On Code（アドオンコードをリクエストする） : EAN-13バーコードが全て「378」または「379」で始まる場合、2桁または5桁のアドオンコードをリクエストです。アドオンコード付きのEAN-13バーコードが送信されます。必要なアドオンコードが見つからない場合、EAN-13バーコードは破棄されます。

Do Not Require Add-On Code（アドオンコードをリクエストしない） : **Require Add-On Code**を選択後、この機能を無効化する場合、**Do Not Require Add-On Code**をスキャンします。EAN-13バーコードが「Add-On Code Required」機能の選択に応じて処理されます。



@E133780

**** Do Not Require Add-On Code**

(アドオンコードをリクエストしない)



@E133781

Require Add-On Code

(アドオンコードをリクエストする)



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

414/419で始まるEAN-13バーコードのアドオンコードをリクエスト

この設定は、「414」または「419」で始まるEAN-13バーコードにアドオンコード（2桁または5桁）をリクエストするようにスキャナーをプログラムします。以下の設定をプログラムできます。

Require Add-On Code（アドオンコードをリクエストする） : EAN-13バーコードが全て「414」または「419」で始まる場合、2桁または5桁のアドオンコードをリクエストします。アドオンコード付きのEAN-13バーコードが送信されます。必要なアドオンコードが見つからない場合、EAN-13バーコードは破棄されます。

Do Not Require Add-On Code（アドオンコードをリクエストしない） : **Require Add-On Code**を選択後、この機能を無効化する場合、**Do Not Require Add-On Code**をスキャンします。EAN-13バーコードが「Add-On Code Required」機能の選



@E134140

択に応じて処理されます。

**** Do Not Require Add-On Code**

(アドオンコードをリクエストしない)



@E134141

Require Add-On Code

(アドオンコードをリクエストする)



#SETUPE0

Exit Setup

434/439で始まるEAN-13バーコードのアドオンコードをリクエスト

この設定は、「434」または「439」で始まるEAN-13バーコードにアドオンコード（2桁または5桁）をリクエストするようにスキャナーをプログラムします。以下の設定をプログラムできます。

Require Add-On Code（アドオンコードをリクエストする）:EAN-13バーコードが全て「434」または「439」で始まる場合、2桁または5桁のアドオンコードをリクエストします。アドオンコード付きのEAN-13バーコードが送信されます。必要なアドオンコードが見つからない場合、EAN-13バーコードは破棄されます。

Do Not Require Add-On Code（アドオンコードをリクエストしない）: **Require Add-On Code**を選択後、この機能を無効化する場合、**Do Not Require Add-On Code**をスキャンします。EAN-13バーコードが「Add-On Code Required」機能の選択に応じて処理されます。



@E134340

**** Do Not Require Add-On Code**

(アドオンコードをリクエストしない)



@E134341

Require Add-On Code

(アドオンコードをリクエストする)



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

977で始まるEAN-13バーコードのアドオンコードをリクエスト

この設定は、「977」で始まるEAN-13バーコードにアドオンコード（2桁または5桁）をリクエストするようにスキャナーをプログラムします。以下の設定をプログラムできます。

Require Add-On Code（アドオンコードをリクエストする）:EAN-13バーコードが全て「977」で始まる場合、2桁または5桁のアドオンコードをリクエストします。アドオンコード付きのEAN-13バーコードが送信されます。必要なアドオンコードが見つからない場合、EAN-13バーコードは破棄されます。

Do Not Require Add-On Code（アドオンコードをリクエストしない）: **Require Add-On Code**を選択後、この機能を無効化する場合、**Do Not Require Add-On Code**をスキャンします。EAN-13バーコードが「Add-On Code Required」機能の選択に応じて処理されます。



@E139770

** **Do Not Require Add-On Code**

(アドオンコードをリクエストしない)



@E139771

Require Add-On Code

(アドオンコードをリクエストする)

978で始まるEAN-13バーコードのアドオンコードをリクエスト



#SETUPE0

Exit Setup

この設定は、「978」で始まるEAN-13バーコードにアドオンコード（2桁または5桁）をリクエストするようにスキャナーをプログラムします。以下の設定をプログラムできます。

Require Add-On Code（アドオンコードをリクエストする） : EAN-13バーコードが全て「978」で始まる場合、2桁または5桁のアドオンコードをリクエストします。アドオンコード付きのEAN-13バーコードが送信されます。必要なアドオンコードが見つからない場合、EAN-13バーコードは破棄されます。

Do Not Require Add-On Code（アドオンコードをリクエストしない） : **Require Add-On Code**を選択後、この機能を無効化する場合、**Do Not Require Add-On Code**をスキャンします。EAN-13バーコードが「Add-On Code Required」機能の選



@E139780
択に応じて処理されます。

**** Do Not Require Add-On Code**

(アドオンコードをリクエストしない)



Require Add-On Code

(アドオンコードをリクエストする)



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

979で始まるEAN-13バーコードのアドオンコードをリクエスト

この設定は、「979」で始まるEAN-13バーコードにアドオンコード（2桁または5桁）をリクエストするようにスキャナーをプログラムします。以下の設定をプログラムできます。

Require Add-On Code（アドオンコードをリクエストする） : EAN-13バーコードが全て「979」で始まる場合、2桁または5桁のアドオンコードをリクエストします。アドオンコード付きのEAN-13バーコードが送信されます。必要なアドオンコードが見つからない場合、EAN-13バーコードは破棄されます。

Do Not Require Add-On Code（アドオンコードをリクエストしない） : **Require Add-On Code**を選択後、この機能を無効化する場合、**Do Not Require Add-On Code**をスキャンします。EAN-13バーコードが「Add-On Code Required」機能の選択に応じて処理されます。



@E139790

**** Do Not Require Add-On Code**
(アドオンコードをリクエストしない)



@E139791

Require Add-On Code
(アドオンコードをリクエストする)



#SETUPE0

Exit Setup

UPC-E

工場出荷時設定に戻す



@UPEDEF

Restore the Factory Defaults of UPC-E (UPC-Eの工場出荷時設定に戻す)

UPC-Eを有効化/無効化



@UPEENA1

** Enable UPC-E (UPC-Eを有効化)



@UPEEN01

** Enable UPC-E0 (UPC-E0を有効化)



@UPEEN11

Enable UPC-E1 (UPC-E1を有効化)



@UPEENA0

Disable UPC-E (UPC-Eを無効化)



@UPEEN00

Disable UPC-E0 (UPC-E0を無効化)



@UPEEN10

**Disable UPC-E1 (UPC-E1を無効化)



スキャナーがUPC-E/UPC-E0/UPC-E1バーコードを 特定できない場合、Enter Setup バーコードをスキャン後、Enable UPC-E/UPC-E0/UPC-E1バーコードをスキャンして問題を解決する必要があります。



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

チェックキャラクタを送信

UPC-Eは長さが8桁であり、末尾の1文字はデータの整合性を検証するチェックキャラクタです。



@UPECHK2

**** Transmit UPC-E Check Character**

(UPC-Eチェックキャラクタを送信)



@UPECHK1

Do Not Transmit UPC-E Check Character

(UPC-Eチェックキャラクタを送信しない)

2桁のアドオンコード

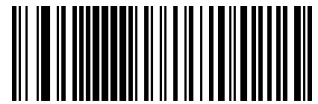
UPC-Eバーコードは2桁のアドオンコードで増強され、新たに形成できます。以下の例の場合、青い点線で囲まれた箇所がUPC-Eバーコードであり、赤い点線で囲まれた箇所が2桁のアドオンコードです。



@UPEAD20

**** Disable 2-Digit Add-On Code**

(2桁のアドオンコードを無効化)



@UPEAD21

Enable 2-Digit Add-On Code

(2桁のアドオンコードを有効化)



#SETUPE0

Exit Setup

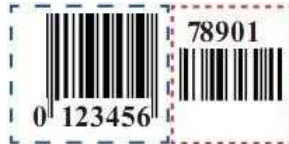


Disable 2-Digit Add-On Code (2桁のアドオンコードを無効化) : UPC-Eに2桁のアドオンコードが付属している場合、スキャナーはUPC-Eバーコードをデコードし、アドオンコードを無視します。2桁のアドオンコードがないUPC-Eバーコードもデコードすることができます。

Enable 2-Digit Add-On Code (2桁のアドオンコードを有効化) : スキャナーは2桁のアドオンコードがあるUPC-EバーコードとアドオンコードがないUPC-Eバーコードのどちらもデコードします。

5桁のアドオンコード

UPC-Eバーコードは5桁のアドオンコードで増強され、新たに形成できます。以下の例の場合、青い点線で囲まれた箇所がUPC-Eバーコードであり、赤い点線で囲まれた箇所が5桁のアドオンコードです。



**** Disable 5-Digit Add-On Code**
(5桁のアドオンコードを無効化)



Enable 5-Digit Add-On Code
(5桁のアドオンコードを有効化)



Disable 5-Digit Add-On Code (5桁のアドオンコードを無効化) : UPC-Eに5桁のアドオンコードが付属している場合、スキャナーはUPC-Eバーコードをデコードし、アドオンコードを無視します。5桁のアドオンコードがないUPC-Eバーコードもデコードすることができます。

Enable 5-Digit Add-On Code (5桁のアドオンコードを有効化) : スキャナーは5桁のアドオンコードがあるUPC-EバーコードとアドオンコードがないUPC-Eバーコードのどちらも読み取ります。





#SETUPE1

Enter Setup

アドオンコードをリクエスト

UPC-E Add-On Code Required (UPC-Eのアドオンコードをリクエストする) を選択すると、
スキャナーはアドオンコード付きのUPC-Eバーコードのみ読み取ります。



@UPAREQ0

**** UPC-E Add-On Code Not Required**
(UPC-Eのアドオンコードをリクエストしない)



@UPAREQ1

UPC-E Add-On Code Required
(UPC-Eのアドオンコードをリクエストする)

プリアンブルキャラクタを送信

プリアンブルキャラクタ (国コードとシステムキャラクタ) は、UPC-E バーコードの一部として送信できます。
UPC-Eプリアンブルをホスト機器に送信する際、システムキャラクタのみ、システムキャラクタと国コード (アメリカは「0」)、プリアンブルキャラクタなしのいずれかの送信方法を選択します。



@UPEPRE1

**** System Character** (システムキャラクタ)



@UPEPRE0

No Preamble (プリアンブルキャラクタなし)



@UPEPRE2

System Character & Country Code (システムキャラクタ&国コード)



#SETUPE0

Exit Setup

UPC-EからUPC-Aへ変換

Convert UPC-E to UPC-A (UPC-EからUPC-Aへ変換する) : UPC-E(ゼロサプレス)のデコードデータを送信前にUPC-A形式へ変換します。変換後、データはUPC-A形式に準拠し、UPC-Aのプログラミングの選択 (プリアンブル、チェックキヤラクタなど) に影響を受けます。

Do Not Convert UPC-E to UPC-A (UPC-EからUPC-Aへ変換しない) : UPC-Eのデコードデータは変換されず、UPC-Eデータとして送信されます。



@UPEEXP0

**** Do Not Convert UPC-E to UPC-A (UPC-EからUPC-Aへ変換しない)**



@UPEEXP1

Convert UPC-E to UPC-A (UPC-EからUPC-Aへ変換する)



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

UPC-A

工場出荷時設定に戻す



@UPADEF

Restore the Factory Defaults of UPC-A
(UPC-Aの工場出荷時設定に戻す)

UPC-Aを有効化/無効化



@UPAENA1

** Enable UPC-A (UPC-Aを有効化)



@UPAENA0

Disable UPC-A (UPC-Aを無効化)



スキャナーがUPC-Aバーコードを 特定できない場合、**Enter Setup** バーコードをスキャン後、**Enable UPC-A**バーコードをスキャンして問題を解決する必要があります。

チェックキャラクタを送信

UPC-Aは長さが13桁であり、末尾の1文字はデータの整合性を検証するチェックキャラクタです。



@UPACHK2

** Transmit UPC-A Check Character

(UPC-Aチェックキャラクタを送信する)



@UPACHK1

Do Not Transmit UPC-A Check Character

(UPC-Aチェックキャラクタを送信しない)



#SETUPE0

Exit Setup

2桁のアドオンコード

UPC-Aバーコードは2桁のアドオンコードで増強され、新たに形成できます。以下の例の場合、青い点線で囲まれた箇所がUPC-Aバーコードであり、赤い点線で囲まれた箇所が2桁のアドオンコードです。



**** Disable 2-Digit Add-On Code**
(2桁のアドオンコードを無効化)



Enable 2-Digit Add-On Code
(2桁のアドオンコードを有効化)



Disable 2-Digit Add-On Code (2桁のアドオンコードを無効化) : UPC-Aに2桁のアドオンコードが付属している場合、スキャナーはUPC-Aバーコードをデコードし、アドオンコードを無視します。2桁のアドオンコードがないUPC-Aバーコードもデコードすることができます。

Enable 2-Digit Add-On Code (2桁のアドオンコードを有効化) : スキャナーは2桁のアドオンコードがあるUPC-AバーコードとアドオンコードがないUPC-Aバーコードのどちらもデコードします。





#SETUPE1

Enter Setup

5桁のアドオンコード

UPC-Aバーコードは5桁のアドオンコードで増強され、新たに形成できます。以下の例の場合、青い点線で囲まれた箇所が UPC-Aバーコードであり、赤い点線で囲まれた箇所が5桁のアドオンコードです。



@UPAAD50

**** Disable 5-Digit Add-On Code**

(5桁のアドオンコードを無効化)



@UPAAD51

Enable 5-Digit Add-On Code

(5桁のアドオンコードを有効化)



Disable 5-Digit Add-On Code (5桁のアドオンコードを無効化) UPC-Aに5桁のアドオンコードが付属している場合、スキャナーはUPC-A バーコードをデコードし、アドオンコードを無視します。5桁のアドオンコードがないUPC-Aバーコードもデコードすることができます。

Enable 5-Digit Add-On Code (5桁のアドオンコードを有効化) : スキャナーは5桁のアドオンコードがあるUPC-AバーコードとアドオンコードがないUPC-Aバーコードのどちらも読み取ります。



#SETUPE0

Exit Setup

アドオンコードをリクエスト

UPC-A Add-On Code Required (UPC-Aのアドオンコードをリクエストする) を選択すると、スキャナーはアドオンコード付きのUPC-Aバーコードのみ読み取ります。



@UPAREQ0

**** UPC-A Add-On Code Not Required**
(UPC-Aのアドオンコードをリクエストしない)



@UPAREQ1

UPC-A Add-On Code Required
(UPC-Aのアドオンコードをリクエストする)

プリアンブルキャラクタを送信

プリアンブルキャラクタ (国コードとシステムキャラクタ) は、UPC-A バーコードの一部として送信できます。UPC-Aプリアンブルをホスト機器に送信する際、システムキャラクタのみ、システムキャラクタと国コード (アメリカは「0」)、プリアンブルキャラクタなしのいずれかの送信方法を選択します。



@UPAPRE0

**** No Preamble**
(プリアンブルキャラクタなし)



@UPAPRE1

System Character (システムキャラクタ)



@UPAPRE2

System Character & Country Code (システムキャラクタ&国コード)



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

インタリーブド 2 of 5
工場出荷時設定に戻す



@I25DEF

Restore the Factory Defaults of Interleaved 2 of 5
(インタリーブド 2 of 5 の工場出荷時設定に戻す)

インタリーブド 2 of 5 を有効化/無効化



@I25ENA1

** Enable Interleaved 2 of 5
(インタリーブド 2 of 5 を有効化)



@I25ENA0

Disable Interleaved 2 of 5
(インタリーブド 2 of 5 を無効化)



スキャナーがインタリーブド 2 of 5 を特定できない場合、**Enter Setup** バーコードをスキャン後、**Enable Interleaved 2 of 5** バーコードをスキャンして問題を解決する必要があります。



#SETUPE0

Exit Setup

インタリーブド 2 of 5の桁数を設定

インタリーブド 2 of 5の最小桁数と最大桁数の変更が行えます。これを行うと指定されていない桁数の読み取りは行えなくなります。



Set the Minimum Length
(最小設定 初期設定: 6)



Set the Maximum Length
(最大設定 初期設定: 80)



最小桁数が最大桁数より大きく設定されている場合、スキャナーは最小桁数または最大桁数のいずれかを持つインタリーブド 2 of 5しかデコードしません。最小桁数と最大桁数が同じ場合、その長さのインタリーブド 2 of 5しかデコードしません。



スキャナーが8~12文字のインタリーブド 2 of 5をデコードするように設定する方法

1. **Enter Setup**バーコードをスキャンします。
2. **Set the Minimum Length**バーコードをスキャンします。
3. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの**Save**バーコードをスキャンします。
5. **Set the Maximum Length**バーコードをスキャンします。
6. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの**Save**バーコードをスキャンします。





#SETUPE1

Enter Setup

8. **Exit Setup**バーコードをスキャンします。

チェックキャラクタ検証

チェックキャラクタはインタリーブド2 of 5のオプションであり、最後の文字として追加できるデータの整合性検証使用の計算値です。

Disable (無効化) : スキャナーはインタリーブド2 of 5をそのまま送信します。

Do Not Transmit Check Character After Verification (検証後にチェックキャラクタを送信しない) : スキャナーは、インタリーブド2 of 5の整合性を全てチェックして、データがチェックキャラクタのアルゴリズムに対応しているかどうかを検証します。チェックに合格したバーコードは最後の桁を除いて送信されますが、チェックを失敗したバーコードは送信されません。

Transmit Check Character After Verification (検証後にチェックキャラクタを送信する) : スキャナーは、インタリーブド2 of 5の整合性を全てチェックして、データがチェックキャラクタのアルゴリズムに準拠しているかどうかを検証します。チェックに合格したバーコードは送信されますが、チェックに失敗したバーコードは送信されません。

インタリーブド2 of 5は文字数が必ず偶数になるため、チェックキャラクタを追加する際、最初の数字の前に0を追加する必要があります。チェックキャラクタはインタリーブド2 of 5作成時に自動的に生成されます。



@I25CHK0

****Disable (無効化)**



@I25CHK1

Do Not Transmit Check Character After Verification
(検証後にチェックキャラクタを送信しない)



@I25CHK2

Transmit Check Character After Verification
(検証後にチェックキャラクタを送信する)



#SETUPE0

Exit Setup



Do Not Transmit Check Character After Verification (検証後にチェックキャラクタを送信しない) オプションが有効の場合、チェックキャラクタを除外後の設定した最小長さより短いインタリーブド 2 of 5はデコードされません (例えば、**Do Not Transmit Check Character After Verification**のオプションが有効で最小長さが4に設定されている場合、合計長さが4でチェックキャラクタを含むインタリーブド 2 of 5は読み取られません)。





#SETUPE1

Enter Setup

ITF-14

ITF-14 は長さが14文字で末尾の文字がチェックキャラクタである特殊なインタリーブド2 of 5 です。

ITF-14 priority principle(ITF-14優先原則): 長さが、14文字で末尾の文字がチェックキャラクタのインタリーブド2 of 5の場合、

ITF-14 設定がインタリーブド2 of 5バーコードの設定より優先されます。

工場出荷時設定に戻す



@I14DEF

Restore the Factory Defaults of ITF-14

(ITF-14の工場出荷時設定に戻す)

ITF-14を有効化/無効化



@I14ENA0

** Disable ITF-14 (ITF-14を無効化)



@I14ENA1

Enable ITF-14 But Do Not Transmit Check Character

(ITF-14を有効化するが、チェックキャラクタを送信しない)



@I14ENA2

Enable ITF-14 and Transmit Check Character

(ITF-14を有効化して、チェックキャラクタを送信する)



ITF-14優先原則の例: ITF-14が有効で、インタリーブド2 of 5が無効の場合、スキャナーは長さが14文字で末尾がチェックキャラクタのインタリーブド2 of 5 バーコードのみデコードします。



#SETUPE0

Exit Setup

ITF-6

ITF-6 は長さが6文字で末尾の文字がチェックキャラクタになっている特殊なインタリーブド2 of 5 です。

ITF-6優先原則: 長さが、6文字で末尾の文字がチェックキャラクタのインタリーブド2 of 5の場合、

ITF-6 設定がインタリーブド2 of 5バーコードの設定より優先されます。

工場出荷時設定に戻す



@IT6DEF

Restore the Factory Defaults of ITF-6

(ITF-6の工場出荷時設定に戻す)

ITF-6を有効化/無効化



@IT6ENA0

**** Disable ITF-6 (ITF-6を無効化)**



@IT6ENA1

Enable ITF-6 But Do Not Transmit Check Character

(ITF-6を有効化するが、チェックキャラクタを送信しない)



@IT6ENA2

Enable ITF-6 and Transmit Check Character

(ITF-6を有効化して、チェックキャラクタを送信する)



ITF-6優先原則の例: ITF-6が有効で、インタリーブド2 of 5が無効の場合、スキャナーは長さが6文字で末尾がチェックキャラクタのインタリーブド2 of 5 バーコードのみデコードします。



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup



#SETUPE0

Exit Setup

Code 39

工場出荷時設定に戻す



@C39DEF

Restore the Factory Defaults of Code 39

(Code 39の工場出荷時設定に戻す)

Code 39を有効化/無効化



@C39ENA1

** Enable Code 39

(Code 39を有効化)



@C39ENA0

Disable Code 39

(Code 39を無効化)



スキャナーがCode 39バーコードを特定できない場合、**Enter Setup** バーコードをスキャン後、**Enable Code 39**バーコードをスキャンして問題を解決する必要があります。



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

Code 39の桁数を設定

Code 39の最小桁数と最大桁数の変更が行えます。これを行うと指定されていない桁数の読み取りは行えなくなります。



@C39MIN

Set the Minimum Length

(最小設定 初期設定: 2)



@C39MAX

Set the Maximum Length

(最大設定 初期設定: 48)



最小桁数が最大桁数より大きく設定されている場合、スキャナーは最小桁数または最大桁数のいずれかを持つCode 39バーコードしかデコードしません。最小桁数と最大桁数が同じ場合、その長さのCode 39しか読み取りができません。



スキャナーが8~12文字のCode 39バーコードをデコードするように設定する方法

1. **Enter Setup**バーコードをスキャンします。
2. **Set the Minimum Length**バーコードをスキャンします。
3. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの**Save**バーコードをスキャンします。
5. **Set the Maximum Length**バーコードをスキャンします。
6. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの**Save**バーコードをスキャンします。
8. **Exit Setup**バーコードをスキャンします。



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

チェックキャラクタ検証

チェックキャラクタはCode 39のオプションであり、最後の文字として追加できるデータの整合性検証使用の計算値です。

Disable (無効化) : スキャナーはCode 39をそのまま送信します。

Do Not Transmit Check Character After Verification (検証後にチェックキャラクタを送信しない) : スキャナーは、Code 39の整合性を全てチェックして、データがチェックキャラクタのアルゴリズムに対応しているかどうかを検証します。チェックに合格したバーコードは最後の桁を除いて送信されますが、チェックを失敗したバーコードは送信されません。

Transmit Check Character After Verification (検証後にチェックキャラクタを送信する) : スキャナーは、Code 39の整合性を全てチェックして、データがチェックキャラクタのアルゴリズムに準拠しているかどうかを検証します。チェックに合格したバーコードは送信されますが、チェックに失敗したバーコードは送信されません。



@C39CHK0

** Disable (無効化)



@C39CHK1

Do Not Transmit Check Character After Verification
(検証後にチェックキャラクタを送信しない)



@C39CHK2

Transmit Check Character After Verification
(検証後にチェックキャラクタを送信する)



Do Not Transmit Check Character After Verification (検証後にチェックキャラクタを送信しない) オプションが有効の場合、チェックキャラクタを除外後の設定した最小長さより短いCode 39バーコードはデコードされません (例えば、**Do Not Transmit Check Character After Verification**のオプションが有効で最小長さが4に設定されている場合、合計長さが4でチェックキャラクタを含むCode 39バーコードは読み取られません)。



#SETUPE0

Exit Setup

スタートキャラクタ/ストップキャラクタを送信

Code 39 は文字の先頭とストップキャラクタにアスタリスク(*)を使用します。以下の適切なバーコードをスキャンしてスタートキャラクタ/ストップキャラクタを送信するか選択することができます。



** Do Not Transmit Start/Stop Character

(スタートキャラクタ/ストップキャラクタを送信しない)



Transmit Start/Stop Character

(スタートキャラクタ/ストップキャラクタを送信する)

Code 39フルアスキーを有効化/無効化

スキャナーは以下の適切なバーコードをスキャンして全てのアスキーキャラクタを特定するよう設定できます。



** Disable Code 39 Full ASCII

(Code 39フルアスキーを無効化)



Enable Code 39 Full ASCII

(Code 39フルアスキーを有効化)

Code 32 (イタリア製薬業界用コード)を有効化/無効化

Code 32は、イタリアの製薬業界で使用されているCode 39の一種です。以下の適切なバーコードをスキャンして、Code 32を有効化または無効化します。このパラメータが機能するためには、Code 39 を有効化し、Code 39 チェックキャラクタ認証を無効化する必要があります。





#SETUPE1

Enter Setup



@C39E320

** Disable Code 32 (Code 32を無効化)



@C39E321

Enable Code 32 (Code 32を有効化)



#SETUPE0

Exit Setup

Code 32 プリフィックス

以下の適切なバーコードをスキャンして、すべての Code 32 バーコードにプリフィックス「A」の追加を有効化または無効化します。このパラメータが機能するには、Code 32 を有効化する必要があります。



@C39S320

**** Disable Code 32 Prefix**

(Code 32 プリフィックスを無効化)



@C39S321

Enable Code 32 Prefix

(Code 32 プリフィックスを有効化)

Code 32 スタートキャラクタ/ストップキャラクタの送信

Code 32が機能するためには、このパラメータを有効化する必要があります。



@C39T320

**** Do Not Transmit Code 32 Start/Stop Character**

(Code 32スタートキャラクタ/ストップキャラクタを送信しない)



@C39T321

Transmit Code 32 Start/Stop Character

(Code 32スタートキャラクタ/ストップキャラクタを送信する)



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

Code 32 チェックキャラクタを送信

Code 32が機能するためにはこのパラメータを有効化する必要があります。



@C39C320

**** Do Not Transmit Code 32 Check Character**
(Code 32チェックキャラクタを送信しない)



@C39C321

Transmit Code 32 Check Character
(Code 32チェックキャラクタを送信する)



#SETUPE0

Exit Setup

Codabar

工場出荷時設定に戻す



@CBADEF

Restore the Factory Defaults of Codabar

(Codabarの工場出荷時設定に戻す)

Codabarを有効化/無効化



@CBAENA1

** Enable Codabar

(Codabarを有効化)



@CBAENA0

Disable Codabar

(Codabarを無効化)



スキャナーがCodabarバーコードを特定できない場合、**Enter Setup** バーコードをスキャン後、**Enable Codabar**バーコードをスキャンして問題を解決する必要があります。



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

Codabarの桁数を設定

Codabarバーコードのみデコードするように設定できます。これを実行するためには最小長さと最大長さを設定する必要があります。



@CBAMIN

Set the Minimum Length

(最小設定 初期設定: 2)



@CBAMAX

Set the Maximum Length

(最大設定 初期設定: 60)



最小長さが最大長さより大きく設定されている場合、スキャナーは最小長さまたは最大長さのいずれかを持つCodabarバーコードしかデコードしません。最小長さと最大長さが同じ場合、その長さのCodabarしか読み取りません。



スキャナーが8~12文字のCodabarバーコードをデコードするように設定する方法

1. Enter Setupバーコードをスキャンします。
2. Set the Minimum Lengthバーコードをスキャンします。
3. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションのSaveバーコードをスキャンします。
5. Set the Maximum Lengthバーコードをスキャンします。
6. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションのSaveバーコードをスキャンします。



#SETUPE0

Exit Setup

8. Exit Setupバーコードをスキャンします。

チェックキャラクタ検証

チェックキャラクタはCodabarのオプションであり、最後の文字として追加できるデータの整合性検証使用の計算値です。

Disable (無効化) : スキャナーはCodabarをそのまま送信します。

Do Not Transmit Check Character After Verification (検証後にチェックキャラクタを送信しない) : スキャナーは、Codabarの整合性を全てチェックして、データがチェックキャラクタのアルゴリズムに対応しているかどうかを検証します。チェックに合格したバーコードは最後の桁を除いて送信されますが、チェックを失敗したバーコードは送信されません。

Transmit Check Character After Verification (検証後にチェックキャラクタを送信する) : スキャナーは、Codabarの整合性を全てチェックして、データがチェックキャラクタのアルゴリズムに準拠しているかどうかを検証します。チェックに合格したバーコードは送信されますが、チェックに失敗したバーコードは送信されません。



**** Disable (無効化)**



**Do Not Transmit Check Character After Verification
(検証後にチェックキャラクタを送信しない)**



**Transmit Check Character After Verification
(検証後にチェックキャラクタを送信する)**



Do Not Transmit Check Character After Verification (検証後にチェックキャラクタを送信しない) オプションが有効の場合、チェックキャラクタを除外後の設定した最小長さより短いCodabarバーコードはデコードされません (例えば、**Do Not Transmit Check Character After Verification**のオプションが有効で最小長さが4に設定されている場合、合計長さが4でチェックキャラクタを含むCodabarバーコードは読み取られません)。



Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

スタート/ストップキャラクタ

以下の適切なバーコードをスキャンしてスタートキャラクタ/ストップキャラクタを設定後、送信するか選択することができます。



@CBATSC0

**** Do Not Transmit Start/Stop Character**

(スタートキャラクタ/ストップキャラクタを送信しない)



@CBATSC1

Transmit Start/Stop Character

(スタートキャラクタ/ストップキャラクタを送信する)



@CBASCF0

**** ABCD/ABCD as the Start/Stop Character**

(ABCD/ABCDをスタートキャラクタ/ストップキャラクタに設定する)



@CBASCF1

ABCD/TN*E as the Start/Stop Character

(ABCD/TN*Eをスタートキャラクタ/ストップキャラクタに設定する)



@CBASCF2

abcd/abcd as the Start/Stop Character

(abcd/abcdをスタートキャラクタ/ストップキャラクタに設定する)



@CBASCF3

abcd/tn*e as the Start/Stop Character

(abcd/tn*eをスタートキャラクタ/ストップキャラクタに設定する)



#SETUPE0

Exit Setup

Code 93

工場出荷時設定に戻す



@C93DEF

Restore the Factory Defaults of Code 93

(Code 93の工場出荷時設定に戻す)

Code 93を有効化/無効化



@C93ENA1

Enable Code 93

(Code 93を有効化)



@C93ENA0

** Disable Code 93

(Code 93を無効化)



スキャナーがCode 93バーコードを特定できない場合、**Enter Setup** バーコードをスキャン後、**Enable Code 93**バーコードをスキャンして問題を解決する必要があります。



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

Code 93の長さを設定

Code 93の最小桁数と最大桁数の変更が行えます。これを行うと指定されていない桁数の読み取りは行えなくなります。



@C93MIN

Set the Minimum Length

(最小設定 初期設定: 2)



@C93MAX

Set the Maximum Length

(最大設定 初期設定: 48)



最小桁数が最大桁数より大きく設定されている場合、スキャナーは最小桁数または最大桁数のいずれかを持つCode 93バーコードしかデコードしません。最小桁数と最大桁数が同じ場合、その長さのCode 93バーコードしかデコードしません。



スキャナーが8~12文字のCode 93バーコードをデコードするように設定する方法

1. Enter Setupバーコードをスキャンします。
2. Set the Minimum Lengthバーコードをスキャンします。
3. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションのSaveバーコードをスキャンします。
5. Set the Maximum Lengthバーコードをスキャンします。
6. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。



#SETUPE0

Exit Setup

7. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの**Save** バーコードをスキャンします。

8. **Exit Setup**バーコードをスキャンします。

チェックキャラクタ検証

チェックキャラクタはCode 93のオプションであり、最後の2文字として追加できるデータの整合性検証使用の計算値です。

Disable (無効化) : スキャナーはCode 93をそのまま送信します。

Do Not Transmit Check Character After Verification (検証後にチェックキャラクタを送信しない) : スキャナーは、Code 93の整合性を全てチェックして、データがチェックキャラクタのアルゴリズムに対応しているかどうかを検証します。チェックに合格したバーコードは最後の桁を除いて送信されますが、チェックを失敗したバーコードは送信されません。

Transmit Check Character After Verification (検証後にチェックキャラクタを送信する) : スキャナーは、Code 93の整合性を全てチェックして、データがチェックキャラクタのアルゴリズムに準拠しているかどうかを検証します。チェックに合格したバーコードは送信されますが、チェックに失敗したバーコードは送信されません。



Disable (無効化)



**** Do Not Transmit Check Character After Verification**
(検証後にチェックキャラクタを送信しない)



Transmit Check Character After Verification
(検証後にチェックキャラクタを送信する)



Do Not Transmit Check Character After Verification (検証後にチェックキャラクタを送信しない) オプションが有効の場合、チェックキャラクタを除外後の設定した最小長さより短いCode 93バーコードはデコードされま



Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

せん（例えば、**Do Not Transmit Check Character After Verification**のオプションが有効で最小長さが4に設定されている場合、合計長さが4でチェックキャラクタを含むCode 93バーコードは読み取られません）。

GS1-128 (UCC/EAN-128)

工場出荷時設定に戻す



@GS1DEF

Restore the Factory Defaults of GS1-128

(GS1-128の工場出荷時設定に戻す)

GS1-128を有効化/無効化



@GS1ENA1

** Enable GS1-128

(GS1-128を有効化)



@GS1ENA0

Disable GS1-128

(GS1-128を無効化)



スキャナーがGS1-128バーコードを 特定できない場合、**Enter Setup** バーコードをスキャン後、**Enable GS1-128**バーコードをスキャンして問題を解決する必要があります。



#SETUPE0

Exit Setup

GS1-128の桁数を設定

GS1-128の最小桁数と最大桁数の変更が行えます。これを行うと指定されていない桁数の読み取りは行えなくなります。



@GS1MIN

Set the Minimum Length

(最小設定 初期設定: 1)



@GS1MAX

Set the Maximum Length

(最大設定 初期設定: 48)



最小長さが最大長さより大きく設定されている場合、スキャナーは最小長さまたは最大長さのいずれかを持つGS1-128バーコードしかデコードしません。最小長さと最大長さが同じ場合、その長さのGS1-128しか読み取りしません。



スキャナーが8~12文字のGS1-128バーコードをデコードするように設定する方法

1. **Enter Setup**バーコードをスキャンします。
2. **Set the Minimum Length**バーコードをスキャンします。
3. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの**Save**バーコードをスキャンします。
5. **Set the Maximum Length**バーコードをスキャンします。
6. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

7. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの**Save** バーコードをスキャンします。
8. **Exit Setup**バーコードをスキャンします。



#SETUPE0

Exit Setup

GS1 Databar (RSS)

工場出荷時設定に戻す



Restore the Factory Defaults of GS1 Databar (GS1 Databarの工場出荷時設定に戻す)

GS1 Databarを有効化/無効化



** Enable GS1 Databar (GS1 Databarを有効化)



Disable GS1 Databar (GS1 Databarを無効化)



スキャナーがGS1 Databarバーコードを特定できない場合、Enter Setup バーコードをスキャン後、

Enable GS1 Databarバーコードをスキャンして問題を解決する必要があります。

アプリケーション識別子 (01) を送信



** Transmit Application Identifier "01" (アプリケーション識別子 (01) を送信)



Do Not Transmit Application Identifier "01" (アプリケーション識別子 (01) を送信しない)



Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

ISBN

工場出荷時設定に戻す



@ISBDEF

Restore the Factory Defaults of ISBN (ISBNの工場出荷時設定に戻す)

ISBNを有効化/無効化



@ISBENA1

**Enable ISBN (ISBNを有効化)



@ISBENA0

Disable ISBN (ISBNを無効化)



スキャナーがISBNバーコードを特定できない場合、**Enter Setup** バーコードをスキャン後、**Enable ISBN**バーコードをスキャンして問題を解決する必要があります。

ISBNフォーマットを設定



@ISBT101

** ISBN-10



@ISBT100

ISBN-13



#SETUPE0

Exit Setup

ISSN

工場出荷時設定に戻す



@ISSDEF

Restore the Factory Defaults of ISSN

(ISSNの工場出荷時設定に戻す)

ISSNを有効化/無効化



@ISSENA1

Enable ISSN (ISSNを有効化)



@ISSENA0

**Disable ISSN (ISSNを無効化)



スキャナーがISSNバーコードを特定できない場合、**Enter Setup** バーコードをスキャン後、**Enable ISSN**バーコードをスキャンして問題を解決する必要があります。



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

インダストリアル25
工場出荷時設定に戻す



@L25DEF

Restore the Factory Defaults of Industrial 25
(インダストリアル25の工場出荷時設定に戻す)

インダストリアル25を有効化/無効化



@L25ENA1

**Enable Industrial 25 (インダストリアル25を有効化)



@L25ENA0

Disable Industrial 25 (インダストリアル25を無効化)



スキャナーがインダストリアル 25バーコードを 特定できない場合、**Enter Setup** バーコードをスキャン後、**Enable Industrial 25**バーコードをスキャンして問題を解決する必要があります。



#SETUPE0

Exit Setup

インダストリアル25の桁数を設定

インダストリアル25の最小桁数と最大桁数の変更が行えます。これを行うと指定されていない桁数の読み取りは行えなくなります。



Set the Minimum Length
(最小設定 初期設定: 6)



Set the Maximum Length
(最大設定 初期設定: 48)



最小桁数が最大桁数より大きく設定されている場合、スキャナーは最小桁数または最大桁数のいずれかを持つインダストリアル25バーコードしかデコードしません。最小桁数と最大桁数が同じ場合、その長さのインダストリアル25しか読み取りしません。



スキャナーが8~12文字のインダストリアル25バーコードをデコードするように設定する方法

1. Enter Setupバーコードをスキャンします。
2. Set the Minimum Lengthバーコードをスキャンします。
3. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションのSaveバーコードをスキャンします。
5. Set the Maximum Lengthバーコードをスキャンします。
6. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションのSaveバーコードをスキャンします。





#SETUPE1

Enter Setup

8. Exit Setupバーコードをスキャンします。

チェックキャラクタ検証

チェックキャラクタはインダストリアル 25バーコードのオプションであり、最後の文字として追加できるデータの整合性検証使用の計算値です。

Disable (無効化) : スキャナーはインダストリアル25バーコードをそのまま送信します。

Do Not Transmit Check Character After Verification (検証後にチェックキャラクタを送信しない) : スキャナーは、インダストリアル25バーコードの整合性を全てチェックして、データがチェックキャラクタのアルゴリズムに対応しているかどうかを検証します。チェックに合格したバーコードは最後の桁を除いて送信されますが、チェックを失敗したバーコードは送信されません。

Transmit Check Character After Verification (検証後にチェックキャラクタを送信) : スキャナーは、インダストリアル25バーコードの整合性を全てチェックして、データがチェックキャラクタのアルゴリズムに準拠しているかどうかを検証します。チェックに合格したバーコードは送信されますが、チェックに失敗したバーコードは送信されません。



@L25CHK0

** Disable (無効化)



@L25CHK1

Do Not Transmit Check Character After Verification
(検証後にチェックキャラクタを送信しない)



@L25CHK2

Transmit Check Character After Verification
(検証後にチェックキャラクタを送信)



Do Not Transmit Check Character After Verification (認証後チェックキャラクタを送信しない) オプションが有効の場合、チェックキャラクタを除外後の設定した最小長さより短いインダストリアル25バーコードはデコードされません (例えば、**Do Not Transmit Check Character After Verification**のオプションが有効で最小長さが4に設定されている場合、合計長さが4でチェックキャラクタを含むインダストリアル25バーコードは読み取られません)



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

スタンダード 25

工場出荷時設定に戻す



@S25DEF

Restore the Factory Defaults of Standard 25

(スタンダード25の工場出荷時設定に戻す)

スタンダード 25の有効化/無効化



@S25ENA1

**Enable Standard 25 (スタンダード25を有効化)



@S25ENA0

Disable Standard 25 (スタンダード25を無効化)



スキャナーがスタンダード25バーコードを特定できない場合、**Enter Setup** バーコードをスキャン後、**Enable Standard 25**バーコードをスキャンして問題を解決する必要があります。



#SETUPE0

Exit Setup

スタンダード25の桁数を設定

スタンダード25の最小桁数と最大桁数の変更が行えます。これを行うと指定されていない桁数の読み取りは行えなくなります。



@S25MIN

Set the Minimum Length

(最小設定 初期設定: 6)



@S25MAX

Set the Maximum Length

(最大設定 初期設定: 48)



最小桁数が最大桁数より大きく設定されている場合、スキャナーは最小桁数または最大桁数のいずれかを持つスタンダード25バーコードしかデコードしません。最小桁数と最大桁数が同じ場合、その長さのスタンダード25バーコードしかデコードしません。



スキャナーが8~12文字のスタンダード25バーコードをデコードするように設定する方法

1. **Enter Setup**バーコードをスキャンします。
2. **Set the Minimum Length**バーコードをスキャンします。
3. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの**Save**バーコードをスキャンします。
5. **Set the Maximum Length**バーコードをスキャンします。
6. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの**Save**バーコードをスキャンします。
8. **Exit Setup**バーコードをスキャンします。



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

チェックキャラクタ検証

チェックキャラクタはスタンダード25バーコードのオプションであり、最後の文字として追加できるデータの整合性検証使用の計算値です。

Disable（無効化）：スキャナーはスタンダード25バーコードをそのまま送信します。

Do Not Transmit Check Character After Verification（検証後にチェックキャラクタを送信しない）：スキャナーは、スタンダード25バーコードの整合性を全てチェックして、データがチェックキャラクタのアルゴリズムに対応しているかどうかを検証します。チェックに合格したバーコードは最後の桁を除いて送信されますが、チェックを失敗したバーコードは送信されません。

Transmit Check Character After Verification（検証後にチェックキャラクタを送信する）：スキャナーは、スタンダード25バーコードの整合性を全てチェックして、データがチェックキャラクタのアルゴリズムに準拠しているかどうかを検証します。チェックに合格したバーコードは送信されますが、チェックに失敗したバーコードは送信されません。



@S25CHK0

** Disable（無効化）



@S25CHK1

**Do Not Transmit Check Character After Verification
（検証後にチェックキャラクタを送信しない）**



@S25CHK2

**Transmit Check Character After Verification
（検証後にチェックキャラクタを送信する）**



Do Not Transmit Check Character After Verification（検証後にチェックキャラクタを送信しない） オプションが有効の場合、チェックキャラクタを除外後の設定した最小長さより短いスタンダード25バーコードはデコードされません（例えば、**Do Not Transmit Check Character After Verification**のオプションが有効で最小長さが4に設定されている場合、合計長さが4でチェックキャラクタを含むスタンダード25バーコードは読み取られません）。



#SETUPE0

Exit Setup

第6章 データフォーマット

概要

データフォーマットを使用して、スキャナーの出力を変更できます。例えば、データフォーマットを使用してバーコードデータの特定の位置に文字を挿入したり、バーコードデータをスキャンする際に特定の文字を抑制/置換/送信したりすることができます。

通常、バーコードをスキャンすると自動的に出力されますが、フォーマットを作成した場合、データを出力する際、フォーマットのプログラミング内で「送信」コマンド（本章の「送信コマンド」の項目を参照）を使用する必要があります。複数のデータフォーマットをスキャナーにプログラムできます。作成可能なデータフォーマットの最大サイズは2048文字です。初期設定では、データフォーマットは無効ですので、必要に応じて有効にしてください。データフォーマットの設定を変更後、各フォーマットをクリアして工場出荷状態に戻したい場合は、以下の**Default Data Format（データフォーマットを初期化）**コードをスキャンしてください。



****Default Data Format（データフォーマットを初期化）**

データフォーマットを追加

データフォーマットは通常はバーコードデータの編集に使用されます。データフォーマットを作成する際、データフォーマットの4つのラベル（Format_0、Format_1、Format_2、Format_3）から1つを選択し、データフォーマットの適用範囲（バーコードタイプやデータ長さなど）を指定し、フォーマットコマンドを含める必要があります。同一のラベルで複数のデータフォーマットを作成できます。スキャンしたデータがデータフォーマットの要件と一致しない場合、非一致エラー音（ブザー）が鳴ります（非一致エラーブザーがONの場合）。

データフォーマットのプログラムはバーコードによるプログラミングとシリアルコマンドによるプログラミングの2種類があります。





#SETUPE1

Enter Setup

バーコードによるプログラミング

ここでは、特定のバーコードをスキャンしてデータフォーマットをプログラムする方法を説明します。無関係なバーコードをスキャンしたり、設定手順に従わなかったりすると、プログラミングに失敗します。データフォーマットの作成に必要な英数字のバーコードは、付録の「英数字バーコード」の項を参照してください。

Step 1: Enter Setupバーコードをスキャンします。

Step 2: Add Data Format (データフォーマットを追加) バーコードをスキャンします。



@DFMADD

Add Data Format (データフォーマットを追加)

Step 3 : ラベル (Format_0、Format_1、Format_2、Format_3のいずれか) を選択します。

数字のバーコード0~3のいずれかをスキャンして、このデータフォーマットのFormat_0~3のいずれかのラベルを付けます。

Step 4: フォーマットのコマンドタイプを選択します。

使用するフォーマットコマンドの種類を指定します。英数字バーコードの6を読み取ると、フォーマットコマンドタイプ6が選択されます。詳細は、本章の「フォーマットコマンドタイプ6」の項目を参照してください。

Step 5: インターフェースのタイプを設定します。

各インターフェースに対応する999をスキャンします。

Step 6: シンボロジーIDを設定します。

付録の「シンボロジーID」の項目を参照し、データフォーマットを適用したいシンボロジーのIDを確認します。シンボロジーIDに該当する3つの英数字バーコードをスキャンします。すべてのシンボロジーのデータフォーマットを作成したい場合は、999をスキャンします。

Step 7: データの長さを設定します。

このシンボロジーで許容されるデータの長さを指定します。データの長さを表す4つの英数字バーコードをスキャンします。9999は、すべての長さに対応するユニバーサルナンバーです。例えば、32文字の場合は「0032」と入力します。

Step 8: フォーマットコマンドを入力します。

本章の「フォーマットコマンドタイプ6」の項を参照してください。データ編集に必要なコマンドを表す英数字のバーコードをスキャンします。例えば、コマンドがF141の場合は、F141をスキャンします。

Step 9: 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションのSaveバーコードをスキャンしてデータフォーマットに保存し



#SETUPE0

Exit Setup

ます。

Example

フォーマットコマンドタイプ6を使用して、Format_0のデータフォーマットをプログラムします。Code 128には10文字を適用し、すべての文字の後に「A」を付けて送信します。

1. **Enter Setup**バーコードをスキャンします。
2. **Add Data Format**バーコードをスキャンします。
3. 「0」バーコードをスキャンします。
4. 「6」バーコードをスキャンします。
5. 「9」バーコードを3回スキャンします。
6. 「002」バーコードをスキャンします。
7. 「0010」バーコードをスキャンします。
8. 英数字バーコード「F141」をスキャンします。
9. **Save**バーコードをスキャンします。

プログラミングプロセスを最適化するため、データフォーマットを作成するためのコマンド（例：

@DFMADD069990020010F141;)を入力して、バッチバーコードを生成することもできます。バッチバーコードの使用方法については、第9章の「バッチバーコードの使用」を参照してください。

ラベルを共有する複数のデータフォーマットを作成する場合、フォーマットは

@DFMADD069990029999F141|069990039999F142|069990049999F143;のように、バッチコマンドの中で縦棒（|）でお互い区切られています。

シリアルコマンドによるプログラミング

データフォーマットは、ホスト機器から受信するシリアルコマンド（HEX）でも作成できます。全てのコマンドは大文字で入力する必要があります。

構文は以下の要素で構成されています。

Prefix（プリフィックス） : "~<SOH>0000" (HEX: 7E 01 30 30 30 30)、6文字。

Storage type（ストレージタイプ） : 「@」（HEX: 40）または「#」（HEX: 23）、1文字。「@」はスキャナーの電源を切っても再起動しても失われない永久的な設定を意味し、「#」はスキャナーの電源を切ったり再起動したりしたら失われる一時的な設定を意味します。





#SETUPE1

Enter Setup

Add Data Format Command (データフォーマットコマンドを追加) : “DFMADD” (HEX: **44 46 4D 41 44 44**), 6文字。

Data format label (データフォーマットラベル) : 「0」 (HEX:30)、 「1」 (HEX:31)、 「2」 (HEX:32)、 「3」 (HEX:33)のうちいずれか1文字です。「0」、「1」、「2」、「3」はそれぞれ、Format_0、Format_1、Format_2、Format_3を表します。

Formatter command type (フォーマットコマンドタイプ) : 「6」 (HEX: 36)、 1文字。

Interface type (インターフェースタイプ) : 「999」 (HEX: **39 39 39**)、 3文字。

Symbology ID Number (シンボロジーID) : データフォーマットを適用したいシンボロジーのID (3文字) 。999は全てのシンボロジーに対応します。

Data length (データ長さ) : このシンボロジーで許容されるデータの長さ (4文字) 。9999 は全ての長さに対応します。例えば、32文字の場合は「0032」と入力します。

Formatter commands (フォーマットコマンド) : データの編集に使用するコマンド文字列です。詳細は、本章の「フォーマットのコマンドタイプ6」の項を参照してください。

Suffix (サフィックス) : “;<ETX>” (HEX: **3B 03**)、 2文字。

例 : フォーマットコマンドタイプ6を使用して、Format_0データフォーマットをプログラムすると、Code 128には10文字が適用され、「A」の前の全ての文字が送信されます。

入力 : **7E 01 30 30 30 30 40 44 46 4D 41 44 44 30 36 39 39 39 30 30 33 39 39 39 39 46 31 34 31 3B 03**

(~<SOH>0000@DFMADD069990020010F141;<ETX>)

レスポンス : **02 01 30 30 30 30 40 44 46 4D 41 44 44 30 36 39 39 39 30 30 33 39 39 39 39 46 31 34 31 06 3B 03**

(<STX><SOH>0000@DFMADD069990020010F141<ACK>;<ETX>)

ラベルを共有する複数のデータフォーマットを作成する場合は、以下のようにシリアルコマンドの縦棒 (|) でフォーマットを区切ります。

例 : ~<SOH>0000@DFMADD069990020010F141|069990039999F142|069990049999F143;<ETX>



#SETUPE0

Exit Setup

データフォーマッタを有効化/無効化

データフォーマッタが無効である場合、バーコードデータはプリフィックスとサフィックスを含み読み込みデータとしてホスト機器へ出力されます。



**** Disable Data Formatter (データフォーマットを無効化)**

Enable Data Formatter, Required, Keep Prefix/Suffix (データフォーマットを有効、必要、プリフィックス・サフィックスを保持) :データフォーマットの要件を満たすスキャンデータは、適宜修正され、プリフィックスとサフィックスとともに出力されます (プリフィックスとサフィックスが有効な場合)。データフォーマットの要件に適合しないデータは、エラーを示すブザーがなり (非適合エラー通知ブザーがONの場合)、そのバーコードのデータは送信されません。

Enable Data Formatter, Required, Drop Prefix/Suffix (データフォーマットを有効、必要、プリフィックス・サフィックスを喪失) :データフォーマットの要件を満たすスキャンデータは、適宜修正され、プリフィックスやサフィックスなしで出力されます (プリフィックスやサフィックスを有効化している場合も同様)。データフォーマットの要件に適合しないデータは、エラーを示すブザーがなり (非適合エラー通知ブザーがONの場合)、そのバーコードのデータは送信されません。

Enable Data Formatter, Not Required, Keep Prefix/Suffix (データフォーマットを有効、不要、プリフィックス・サフィックスを保持) :データフォーマットの要件を満たすスキャンデータは、適宜修正漏れ、プリフィックスとサフィックスとともに出力されます (プリフィックスとサフィックスが有効な場合)。データフォーマットの要件に適合しないバーコードデータは、プリフィックスとサフィックスとともに、読み取りデータとして送信されます (プリフィックスとサフィックスが有効な場合)。

Enable Data Formatter, Not Required, Drop Prefix/Suffix (データフォーマットを有効、不要、プリフィックス・サフィックスを喪失) :データフォーマットの要件を満たすスキャンデータは、適宜修正され、プリフィックスやサフィックスなしで出力されます (プリフィックスやサフィックスを有効化している場合も同様)。データフォーマットの要件に適合しないバーコードデータは、プリフィックスとサフィックスとともに、読み取りデータとして送信されます (プリフィックスとサフィックスが有効な場合)。





#SETUPE1

Enter Setup



@DFMENA1

Enable Data Formatter, Required, Keep Prefix/Suffix

(データフォーマットを有効、必要、プリフィックス・サフィックスを有効)



@DFMENA3

Enable Data Formatter, Not Required, Keep Prefix/Suffix

(データフォーマットを有効、不要、プリフィックス・サフィックスを有効)



@DFMENA2

Enable Data Formatter, Required, Drop Prefix/Suffix

(データフォーマットを有効、必要、プリフィックス・サフィックスを無効)



@DFMENA4

Enable Data Formatter, Not Required, Drop Prefix/Suffix

(データフォーマットを有効、不要、プリフィックス・サフィックスを無効)

非適合エラー通知ブザー

Error Beep (非適合エラー通知ブザー) がONの場合、データフォーマットの要件と一致しないバーコードに遭遇した場合、スキャナーはエラーを通知するブザーを鳴らします。



@DFMTON0

Non-Match Error Beep Off

(非適合エラー通知ブザー オフ)



@DFMTON1

**** Non-Match Error Beep On**

(非適合エラー通知ブザー オン)



#SETUPE0

Exit Setup

データフォーマット選択

データフォーマットを有効化後、以下の適切なバーコードをスキャンして使用したいデータフォーマットを選択できます。

初期設定はFormat_0です。



@DFMUSE0
**** Format_0**



@DFMUSE2
Format_2



@DFMUSE1
Format_1



@DFMUSE3
Format_3



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

データフォーマットをクリア

スキャナーから作成したデータフォーマットを削除する方法は2種類あります。

データフォーマットを1件削除: **Clear One (1件クリア)** バーコード、英数字バーコード(0-3)、**Save**バーコードをスキャンします。例えば、**Format_2**を削除する場合、**Clear One**バーコード、英数字バーコード「2」、**Save**バーコードをスキャンします。

データフォーマットを全て削除: **Clear All (全てクリア)** バーコードをクリアします。



@DFMCAL

Clear All (全てクリア)



@DFMCLR

Clear One (1件クリア)

データフォーマットをクエリ

以下の適切なバーコードをスキャンすると、お客様が作成した、またはメーカーが初期設定したデータフォーマットの情報を得ることができます。例えば、本章の「データフォーマットの追加」の項目の例に従って**Format_0**を追加した場合、**Query Current Data Formats (現在のデータフォーマットをクエリ)**のバーコードをスキャンすると、以下のような結果が得られます。



@DFMQCU

Query Current Data Formats

(現在のデータフォーマットをクエリ)



@DFMQFA

Query Preset Data Formats

(初期設定のデータフォーマットをクエリ)



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

第7章 プリフィックス & サフィックス

概要

1次元バーコードには、数字、文字、記号などのデータが含まれています。2次元バーコードは、漢字やその他のマルチバイト文字など、より多くのデータを含むことができます。しかし、実際の利用において、バーコードを短く柔軟性を保つために、バーコードの種類、データ取得時間、区切り文字など、必要なすべての情報を持たず、持つべきではありません。

上記の要件を満たす方法に、プリフィックスとサフィックスがあります。これらは、元のバーコードデータを維持したまま、追加、削除、変更することができます。



バーコード処理プロセス

1. データフォーマットでデータ編集
2. プリフィックス/サフィックスを追加
3. データをパッキング
4. ストップキャラクタを追加

グローバル設定

全てのプリフィックス/サフィックスを有効化/無効化

Disable All Prefix/Suffixes (プリフィックス/サフィックスを無効化) : プリフィックス/サフィックスを追加せずにバーコードデータを送信します。

Enable All Prefixes/Suffixes (プリフィックス/サフィックスを有効化) : Code ID プリフィックス、AIM ID プリフィックス、カスタムプリフィックス/サフィックス、ストップキャラクタをバーコードデータに付加して送信することを許可します。



@APSENA0

**** Disable All Prefixes/Suffixes (プリフィックス/サフィックスを無効化)**



@APSENA1

Enable All Prefixes/Suffixes (プリフィックス/サフィックスを有効化)



#SETUPE0

Exit Setup

プリフィックスシーケンス



@PRESEQ0

** Code ID+ Custom +AIM ID



@PRESEQ1

Custom + Code ID + AIM ID

カスタムプリフィックス

カスタムプリフィックスを有効化/無効化

カスタムプリフィックスを有効化すると、データに10文字を超えないユーザー定義のプリフィックスを付加することができます。例えば、カスタムプリフィックスが「AB」で、バーコードデータが「123」の場合、ホスト機器は「AB123」を受信します。



@CPRENA0

** Disable Custom Prefix (カスタムプリフィックスを無効化)



@CPRENA1

Enable Custom Prefix (カスタムプリフィックスを有効化)

カスタムプリフィックスを設定

カスタムプリフィックスを設定する場合、**Set Custom Prefix**バーコードをスキャンし、次に必要なプリフィックスのHEX値に対応する数字バーコードをスキャンし、**Save**バーコードをスキャンして完了です。

注意：カスタムプリフィックスは、10文字を超えることはできません。



@CPRSET



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

Set Custom Prefix (カスタムプリフィックスを設定)

E
Example

カスタムプリフィックスを「CODE」(HEX: 0x43/0x4F/0x44/0x45)に設定する方法

1. **Enter Setup**バーコードをスキャンします。
2. **Set Custom Prefix b**バーコードをスキャンします。
3. 付録の「英数字バーコード」セクションにある数字バーコード「4」、「3」、「4」、「F」、「4」、「4」、「4」、「5」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの**Save**バーコードをスキャンします。
5. **Enable Custom Prefix**バーコードをスキャンします。
6. **Exit Setup**バーコードをスキャンします。



#SETUPE0

Exit Setup

AIM ID プリフィックス

AIM (国際自動認識工業会) ID は、シンボロジー識別子を定義します (詳細は、付録の「AIM ID 表」を参照してください)。AIM ID プリフィックスが有効な場合、スキャナーはデコード後、スキャンデータの前にシンボロジー識別子を追加します。



@AIDENA0

**** Disable AIM ID Prefix (AIM ID プリフィックスを無効化)**



@AIDENA1

Enable AIM ID Prefix (AIM ID プリフィックスを有効化)



AIM ID はユーザーがプログラムできません。



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

Code IDプリフィックス

Code IDは、バーコードの種類を識別するためにも使用できます。AIM IDとは異なり、Code IDはユーザーがプログラムできます。CodeIDは、1文字または2文字の英字で構成されています。



@CIDENA0

**** Disable Code ID Prefix (Code IDプリフィックスを無効化)**



@CIDENA1

Enable Code ID Prefix (Code IDプリフィックスを有効化)



#SETUPE0

Exit Setup

全てのデフォルトのCode IDを復元

デフォルトのCode IDについては、付録の「Code ID表」の項目を参照してください。



@CIDDEF

Restore All Default Code IDs (全てのデフォルトのCode IDを復元)

Code IDを変更

Code IDを変更し、各シンボロジーのデフォルトのCode IDを復元方法については、以下の例を参照してください。

E
xample

F417 Code ID を「p」 (HEX: 0x70)に変更する方法

1. **Enter Setup**バーコードをスキャンします。
2. **Modify PDF417 Code ID** バーコードをスキャンします。
3. 「英数字バーコード」セクションにある数字バーコード「7」、「0」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの**Save**バーコードをスキャンします。
5. **Exit Setup**バーコードをスキャンします。

各シンボロジーのCode IDをデフォルトに戻す方法

1. **Enter Setup**バーコードをスキャンします。
2. **Restore All Default Code IDs**バーコードをスキャンします。
3. **Exit Setup**バーコードをスキャンします。



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

1次元シンボロジーのCode ID変更



@CID002

Modify Code 128 Code ID (Code 128 のCode IDを変更)



@CID004

Modify EAN-8 Code ID (EAN-8のCode IDを変更)



@CID003

Modify GS1-128 (UCC/EAN-128) Code ID
(GS1-128 (UCC/EAN-128) のCode IDを変更)



@CID005

Modify EAN-13 Code ID (EAN-13 のCode IDを変更)



@CID006

Modify UPC-E Code ID (UPC-E のCode IDを変更)



@CID007

Modify UPC-A Code ID (UPC-AのCode IDを変更)



@CID008

Modify Interleaved 2 of 5 Code ID
(インタリーブド2 of 5 のCode IDを変更)



#SETUPE0

Exit Setup



@CID009

Modify ITF-14 Code ID (ITF-14 のCode IDを変更)



@CID010

Modify ITF-6 Code ID (ITF-6の Code ID変更)



@CID129

**Modify Deutsche 14 Code ID
(Deutsche 14 のCode IDを変更)**



@CID128

**Modify Deutsche 12 Code ID
(Deutsche 12の Code IDを変更)**



@CID011

**Modify Matrix 2 of 5 Code ID
(Matrix 2 of 5 のCode IDを変更)**



@CID013

Modify Code 39 Code ID (Code 39のCode IDを変更)



@CID015

Modify Codabar Code ID (Codabar のCode IDを変更)



@CID017

Modify Code 93 Code ID (Code 93 のCode IDを変更)



@CID020

Modify AIM 128 Code ID (AIM 128の Code IDを変更)



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup



@CID023

Modify ISSN Code ID (ISSN のCode IDを変更)



@CID025

Modify Industrial 25 Code ID
(インダストリアル25のCode IDを変更)



@CID027

Modify Plessey Code ID (Plessey のCode IDを変更)



@CID031

Modify GS1 Databar (RSS) Code ID
(GS1 Databar (RSS) のCode IDを変更)



@CID024

Modify ISBN Code ID (ISBN のCode IDを変更)



@CID026

Modify Standard 25 Code ID
(スタンダード 25 のCode IDを変更)



@CID028

Modify Code 11 Code ID (Code 11のCode IDを変更)



@CID029

Modify MSI Plessey Code ID (MSI PlesseyのCode IDを変更)



#SETUPE0

Exit Setup

カスタムサフィックス

カスタムサフィックスを有効化/無効化

カスタムサフィックスを有効にすると、データに10文字を超えないユーザー定義のサフィックスを付加することができます。例えば、カスタムサフィックスが「AB」で、バーコードデータが「123」の場合、ホスト機器は「123AB」を受信します。



** Disable Custom Suffix (カスタムサフィックスを無効化)

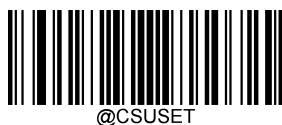


Enable Custom Suffix (カスタムサフィックスを有効化)

カスタムサフィックスを設定

カスタムサフィックスを設定する場合、**Set Custom Suffix**バーコードをスキャンし、次に必要なサフィックスのHEX値に対応する数字バーコードをスキャンし、**Save**バーコードをスキャンして完了です。

注意：カスタムサフィックスは、10文字を超えることはできません。



Set Custom Suffix (カスタムサフィックスを設定)

E
sample

カスタムサフィックスを「CODE」(HEX: 0x43/0x4F/0x44/0x45)に設定する方法

1. **Enter Setup**バーコードをスキャンします。
2. **Set Custom Suffix**バーコードをスキャンします。
3. 「英数字バーコード」セクションにある数字バーコード「4」、「3」、「4」、「F」、「4」、「4」、「4」 「5」 をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの**Save**バーコードをスキャンします。
5. **Enable Custom Suffix**バーコードをスキャンします。
6. **Exit Setup**バーコードをスキャンします。



Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

データパッキング

概要

データパッキングは、送信前にデータをパックしてほしいという特定のユーザーのために設計されています。データパッキングはデータフォーマットに影響を与えるため、この機能が不要な場合は無効にすることをお勧めします。

データパッキングオプション

Disable Data Packing (データパッキングを無効化) : 読み取ったデータを生のフォーマット (パケットなし) で送信します。
Enable Data Packing, Format 1 (データパッキング、フォーマット1を有効化) : 以下で定義されるパケットフォーマット1を伴うデコードされたデータを送信します。

パケットフォーマット1: [STX + ATTR + LEN] + [AL_TYPE + DATA] + [LRC]

STX : 0x02

ATTR : 0x00

LEN : バーコードデータの長さを、0x0000 (0) から 0xFFFF (65535) までの2バイトで表示。

AL_TYPE: 0x36

DATA : バーコードの生データ。

LRC : チェックデジット

LRCの計算アルゴリズム : 計算シーケンス

0xFF+LEN+AL_TYPE+DATA : 計算方法はXOR、1バイト毎に計算。

Enable Data Packing, Format 2: (データパッキング、フォーマット2を有効化)

読み取ったデータを以下のパケットフォーマット2で送信します。

パケットフォーマット2: [STX + ATTR + LEN] + [AL_TYPE] + [Symbology_ID + DATA] +

[LRC]STX: 0x02

ATTR: 0x00

LEN : バーコードデータの長さを、0x0000 (0) から 0xFFFF (65535) までの2バイトで表示。

AL_TYPE: 0x3B

Symbology_ID: シンボロジーのID番号、1バイト。



#SETUPE0

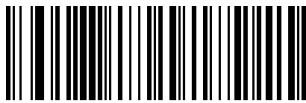
Exit Setup

DATA: 生バーコードデータ

LRC: チェックデジット

LRLRC計算アルゴリズム: 計算シーケンス

0xFF+LEN+AL_TYPE+Symbology_ID+DATA、計算方法はXOR、1バイト毎に計算。



@PACKAG0

**** Disable Data Packing (データパッキングを無効化)**



@PACKAG1

Enable Data Packing, Format 1

(データパッキング フォーマット1を有効化)



@PACKAG2

Enable Data Packing, Format 2

(データパッキング フォーマット2を有効化)



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

ストップキャラクタサフィックス

ストップキャラクタサフィックスを有効化/無効化

キャリッジリターン(CR)やキャリッジリターン/ラインフィードペア(CRLF)などのストップキャラクタは、データの終わりを示すためにのみ使用することができ、その後には何も加えることができません。



@TSUENA0

Disable Terminating Character Suffix (ストップキャラクタサフィックスを無効化)



@TSUENA1

**** Enable Terminating Character Suffix**

(ストップキャラクタサフィックスを有効化)

ストップキャラクタサフィックスを設定

ストップキャラクタサフィックスを設定する場合、**Set Terminating Character Suffix** (ストップキャラクタサフィックスを設定) バーコードをスキャンし、次に必要なストップキャラクタサフィックスのHEX値に対応する数字バーコードをスキャンし、**Save** バーコードをスキャンして完了です。

注意：ストップキャラクタのサフィックスは2文字を超えることはできません。



@TSUSET

Set Terminating Character Suffix

(ストップキャラクタサフィックスを設定)



@TSUSET0D

**** Set Terminating Character to CR (0x0D)**

(ストップキャラクタをCR (0x0D)に設定)



@TSUSET0D0A

Set Terminating Character to CRLF (0x0D,0x0A)

(ストップキャラクタをCRLF (0x0D,0x0A)に設定)



#SETUPE0

Exit Setup

E *sample*

ストップキャラクタのサフィックスを0x0Aに設定する方法

1. **Enter Setup**バーコードをスキャンします。
2. **Set Terminating Character Suffix** バーコードをスキャンします。
3. 「英数字バーコード」セクションにある数字バーコード「0」、「A」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの**Save** バーコードをスキャンします。
5. **Enable Terminating Character Suffix** バーコードをスキャンします。
6. **Exit Setup**バーコードをスキャンします。





#SETUPE1

Enter Setup

付録

英数字バーコード

0~9



@DIGIT0

0



@DIGIT2

2



@DIGIT4

4



@DIGIT1

1



@DIGIT3

3



@DIGIT5

5



#SETUPE0

Exit Setup



@DIGIT6

6



@DIGIT7

7



@DIGIT8

8



@DIGIT9

9



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1

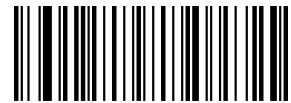
Enter Setup

A~F



@DIGITA

A



@DIGITB

B



@DIGITC

C



@DIGITD

D



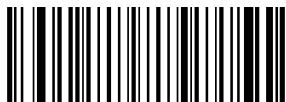
@DIGITE

E



@DIGITF

F



@DIGIVB

'1'



#SETUPE0

Exit Setup

バーコードを保存/キャンセル

数字のバーコードを読み取った後、データを保存するためには、**Save** バーコードをスキャンする必要があります。

間違った桁をスキャンした場合は、**Cancel** バーコードをスキャンして設定を最初からやり直すか、**Delete the Last Digit** バーコードをスキャンして正しい桁をスキャンするか、または**Delete All Digits** バーコードをスキャンして希望する桁をスキャンすることができます。

例：最大長さ（最大長さ）のバーコードと数字のバーコード「1」、「2」、「3」を読み取った後、スキャンした場合

◇ **Delete the Last Digit**（最後の桁を削除）：最後の桁の「3」が削除されます。

◇ **Delete All Digits**（全ての桁を削除）：数字「123」が全て削除されます。

◇ **Cancel**（キャンセル）：最大長さの設定がキャンセルされます。また、スキャナーはまだセットアップモードのままです。



@DIGSAV
Save（保存）



@DIGCAN
Cancel（キャンセル）



@DIGDEL
Delete the Last Digit（最後の桁を削除）



@DIGDAL
Delete All Digits（全ての桁を削除）



#SETUPE0
Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup

工場出荷時設定表

パラメータ	工場出荷時設定	備考
システム設定		
バーコードプログラミング	Disabled (Exit Setup)	
プログラミングバーコードデータ	Do not transmit	
イルミネーションLED	On	
電源ブザー	On	
グッドリードブザー	On	
グッドリードブザー持続時間	Medium (80ms)	
グッドリードブザーの周波数	2620Hz	
グッドリードブザーの音量	Loud	
グッドリードバイブレーション	Off	
グッドリードバイブレーション持続時間	300ms	
スキャンモード	Level Mode	
デコードセッションタイムアウト	3,000ms.	1-3,600,000ms
手振れ補正タイムアウト (センスモード)	200ms	0-3,000ms
読取りタイムアウト	Disabled	
	1500ms	1-3,600,000ms
読取りタイムアウトリセット	Off	
グッドリードディレイ	Off	
	500ms	
GS1アプリケーション識別子 (AI) を括弧で囲む	Off	
GS1 アプリケーション識別子 (GS1 AIs)を送信	Transmit	
GS1-128(UCC/EAN-128)	Transmit GS1 Application Identifier (GS1 AIs)	
GS1 Databar(RSS)	Transmit GS1 Application Identifier (GS1 AIs)	
GS1 チェックキャラクタを送信	Transmit	
GS1-128(UCC/EAN-128)	Transmit GS1 Check Character	
GS1 Databar(RSS)	Transmit GS1 Check Character	
感度	Medium Sensitivity	
トリガーコマンド	Disabled	
バーコード読み取り	On	
	Off	



#SETUPE0

Exit Setup

読み取りエラーメッセージ	NG	
初期設定インターフェース	Bluetooth HID	
USB インターフェース		
USB 国別キーボード	US keyboard	USB HID キーボード
不明な文字の警告ブザー	Off	USB HID キーボード
Emulate ALT+キーパッド	Off	USB HID キーボード
コードページ	Code Page 1252 (West European Latin)	USB HID キーボード
Unicodeエンコード	Off	USB HID キーボード
先行ゼロ付きキーボードエミュレーション	On	USB HID キーボード
ファンクションキーマッピング	Disable	USB HID キーボード
キーストローク間の遅延	**Short Delay (長 : 40ms)	USB HID キーボード
Caps Lock	Off(Non Japanese Keypad)	USB HID キーボード
大文字/小文字の切り替え	No Case Conversion	USB HID キーボード
テンキーをエミュレート1	Off	USB HID キーボード
テンキーをエミュレート2	Off	USB HID キーボード
ファストモード	Off	USB HID キーボード
ポーリングレート	4ms	USB HID キーボード
ワイヤレス通信		
バッチモード	Off	
同じバーコードの保存防止	Off	
バッチモード送信ディレイ	Off	
フラッシュメモリに保存したデータをクエリ/クリア	Off	
バッチモード用送信メッセージ完了	Off	
スキャナー時間	Setting scanner time	
タイムスタンプ	Off	
タイムスタンプフォーマット	Format 1 (YYYY/MM/DD,HH:MM:SS)	
自動電源オフ	30 minutes	
シンボロジー		
Code 128		
Code 128	Enabled	
最大長さ	48	
最小長さ	1	





#SETUPE1

Enter Setup

EAN-8		
EAN-8	Enabled	
チェックキャラクタ	Transmit	
2桁のアドオンコード	Disabled	
5桁のアドオンコード	Disabled	
アドオンコードをリクエスト	Not Required	
EAN-8をEAN-13へ変換	Disabled	
EAN-13		
EAN-13	Enabled	
チェックキャラクタ	Transmit	
2桁のアドオンコード	Disabled	
5桁のアドオンコード	Disabled	
アドオンコードをリクエスト	Do Not Require Add-On Code	
290で始まるEAN-13バーコードのアドオンコードをリクエスト	Do Not Require Add-On Code	
378また379で始まるEAN-13バーコードのアドオンコードをリクエスト	Do Not Require Add-On Code	
414また419で始まるEAN-13バーコードのアドオンコードをリクエスト	Do Not Require Add-On Code	
434または439で始まるEAN-13バーコードのアドオンコードをリクエスト	Do Not Require Add-On Code	
977で始まるEAN-13バーコードのアドオンコードをリクエスト	Do Not Require Add-On Code	
978で始まるEAN-13バーコードのアドオンコードをリクエスト	Do Not Require Add-On Code	
979で始まるEAN-13バーコードのアドオンコードをリクエスト	Do Not Require Add-On Code	
UPC-E		
UPC-E	Enabled	
UPC-E0	Enabled	
UPC-E1	Disable	
チェックキャラクタ	Transmit	
2桁のアドオンコード	Disabled	
5桁のアドオンコード	Disabled	
アドオンコードをリクエスト	Not Required	
プリアンブルキャラクタを送信	System Character	



#SETUPE0

Exit Setup

UPC-EをUPC-Aへ変換	Disabled	
UPC-A		
UPC-A	Enabled	
チェックキャラクタ	Transmit	
2桁のアドオンコード	Disabled	
5桁のアドオンコード	Disabled	
アドオンコードをリクエスト	Not Required	
プリアンブルキャラクタを送信	Do not transmit	
インタリーブド 2 of 5		
インタリーブド 2 of 5	Enabled	
最大長さ	80	
最小長さ	6	
チェックキャラクタ検証	Disabled	
ITF-14		
ITF-14	Disabled	
ITF-6		
ITF-6	Disabled	
Deutsche 14		
Deutsche 14	Disabled	
Deutsche 12		
Deutsche 12	Disabled	
Matrix 2 of 5		
Matrix 2 of 5	Enabled	
最大長さ	80	
最小長さ	4	4以上
チェックキャラクタ検証	Disable	
Code 39		
Code 39	Enabled	
最大長さ	48	
最小長さ	2	
チェックキャラクタ検証	Disabled	
スタート/ストップキャラクタ	Do not transmit	
Code 39 フルアスキー	Disabled	
Code 32 (イタリア製薬業界用コード)	Disabled	
Code 32 プリフィックス	Disabled	
Code 32 スタート/ストップキャラクタ	Do not transmit	





#SETUPE1

Enter Setup

Code 32 チェックキャラクタ	Do not transmit	
Codabar		
Codabar	Enabled	
最大長さ	60	
最小長さ	2	
チェックキャラクタ検証	Disabled	
スタート/ストップキャラクタ	Do not transmit	
	ABCD/ABCD	全て大文字
Code 93		
Code 93	Disabled	
最大長さ	48	
最小長さ	2	
チェックキャラクタ検証	Do Not Transmit Check Character After Verification	
UCC/EAN-128		
UCC/EAN-128	Enabled	
最大長さ	48	
最小長さ	1	
GS1 Databar		
GS1 Databar	Enabled	
アプリケーション識別子「01」	Transmit	
Code 11		
Code 11	Disabled	
最大長さ	48	
最小長さ	4	4以上
チェックキャラクタ検証	One Check Character, MOD11	

チェックキャラクタ	Transmit Check Character	
ISBN		
ISBN	Enabled	
ISBN フォーマットを設定	ISBN-10	
ISSN		
ISSN	Disabled	
インダストリアル 25		
インダストリアル 25	Enabled	
最大長さ	48	
最小長さ	6	4以上



#SETUPE0

Exit Setup

チェックキャラクタ検証	Disabled	
スタンダード 25		
スタンダード 25	Enabled	
最大長さ	48	
最小長さ	6	4以上
チェックキャラクタ検証	Disabled	
Plessey		
Plessey	Disabled	
最大長さ	48	
最小長さ	4	4以上
チェックキャラクタ検証	Disabled	
MSI-Plessey		
MSI-Plessey	Disabled	
最大長さ	48	
最小長さ	4	4以上
チェックキャラクタ検証	One Check Character, MOD10	
チェックキャラクタ	Transmit	
AIM 128		
AIM 128	Disabled	
最大長さ	48	
最小長さ	1	
データフォーマット		
データフォーマット	Disabled	
非適合エラー通知ブザー	Format_0	
データフォーマット選択	On	
プリフィックス & サフィックス		
全てのプリフィックス/サフィックス	Disabled	
プリフィックスシーケンス	Code ID+ Custom +AIM ID	
カスタムプリフィックス	Disabled	
AIM ID プリフィックス	Disabled	
Code ID プリフィックス	Disabled	
カスタムサフィックス	Disabled	
データパッキング	Disable Data Packing	
ストップキャラクタサフィックス	Enable <CR>(0x0D)	





#SETUPE1

Enter Setup

AIM ID 表

シンボロジー	AIM ID	可能なAIM ID 修飾 (m)
Code128]C0	
GS1-128 (UCC/EAN-128)]C1	
EAN-8]E4	
EAN-8 with Addon]E3	
EAN-13]E0	
EAN-13 with Addon]E3	
UPC-E]E0	
UPC-E with Addon]E3	
UPC-A]E0	
UPC-A with Addon]E3	
インタリーブド 2 of 5]Im	0, 1, 3
ITF-14]Im	1, 3
ITF-6]Im	1, 3
Deutsche 14 Deutsche 12]X0	
Matrix 2 of 5]X0	
Code 39]Am	0, 1, 3, 4, 5, 7
Codabar]Fm	0, 2, 4
Code 93]G0	
AIM 128]C2	
ISSN]X0	
ISBN]X0	
インダストリアル 25]S0	
スタンダード 25]R0	
Plessey]P0	
Code 11]Hm	0, 1, 3
MSI Plessey]Mm	0, 1
GS1 Databar (RSS)]e0	

注意: 「m」はAIM修飾子の文字を表しています。ISO/IEC 15424:2008 情報技術 - 自動認識およびデータキャプチャ技術 - AIM修飾文字詳細のためのデータキャリア識別子 (シンボロジー修飾子含む)。



#SETUPE0

Exit Setup

Code ID 表

シンボロジ	Code ID
Code128	j
GS1-128 (UCC/EAN-128)	j
EAN-8	d
EAN-13	d
UPC-E	c
UPC-A	c
インタリーブド 2 of 5	e
ITF-14	e
ITF-6	e
Deutsche 14	w
Deutsche 12	l
Matrix 2 of 5	v
Code 39	b
Codabar	a
Code 93	i
AIM 128	X
ISSN	g
ISBN	B
インダストリアル 25	l
スタンダード 25	f
Plessey	n
Code 11	H
MSI Plessey	m
GS1 Databar (RSS)	R





#SETUPE1

Enter Setup

シンボロジー ID 表

シンボロジー	ID
Code 128	002
GS1-128 (UCC/EAN-128)	003
EAN-8	004
EAN-13	005
UPC-E	006
UPC-A	007
インタリーブド 2 OF 5	008
ITF-14	009
ITF-6	010
Deutsche 14	128
Deutsche 12	129
Matrix 2 of 5	011
Code 39	013
Codabar	015
Code 93	017
AIM 128	020
ISSN	023
ISBN	024
インダストリアル25	025
スタンダード25	026
Plessey	027
Code11	028
MSI-Plessey	029
GS1 Databar (RSS)	031



#SETUPE0

Exit Setup

ASCII 表

Hex	Dec	記号
00	0	NUL (NUL文字)
01	1	SOH (ヘッダ開始)
02	2	STX (テキストの開始)
03	3	ETX (テキストの終わり)
04	4	EOT (送信の終了)
05	5	ENQ (問い合わせ)
06	6	ACK (確認応答)
07	7	BEL (ベル)
08	8	BS (バックスペース)
09	9	HT (水平タブ)
0a	10	LF (ラインフィード)
0b	11	VT (垂直タブ)
0c	12	FF (フォームフィード)
0d	13	CR (キャリッジリターン)
0e	14	SO (シフトアウト)
0f	15	SI (シフトイン)
10	16	DLE (データリンクエスケープ)
11	17	DC1 (XON) (デバイスコントロール1)
12	18	DC2 (デバイスコントロール2)
13	19	DC3 (XOFF) (デバイスコントロール3)
14	20	DC4 (デバイスコントロール4)
15	21	NAK (否定応答)
16	22	SYN (同期アイドル)
17	23	ETB (トランスブロックの終了)
18	24	CAN (キャンセル)
19	25	EM (エンドオブメディア)
1a	26	SUB (サブスティテュート)
1b	27	ESC (エスケープ)
1c	28	FS (ファイルセパレータ)
1d	29	GS (グループセパレータ)





#SETUPE1

Enter Setup

Hex	Dec	記号
1e	30	RS (送信要求)
1f	31	US (ユニットセパレーター)
20	32	SP (スペース)
21	33	! (エクスクラメーションマーク)
22	34	" (ダブルクォーテーション)
23	35	# 数字記号
24	36	\$(ドル記号)
25	37	%(パーセント)
26	38	&(アンド記号)
27	39	(シングルクォート)
28	40	((左/開始括弧)
29	41)(右/閉じ括弧)
2a	42	* (アスタリスク)
2b	43	+(プラス)
2c	44	,(コンマ)
2d	45	-(マイナス/ダッシュ)
2e	46	.(ドット)
2f	47	/(前スラッシュ)
30	48	0
31	49	1
32	50	2
33	51	3
34	52	4
35	53	5
36	54	6
37	55	7
38	56	8
39	57	9
3a	58	: (コロン)
3b	59	; (セミコロン)
3c	60	< (不等号<)
3d	61	= (等号)



#SETUPE0

Exit Setup

Hex	Dec	記号
3e	62	> (不等号>)
3f	63	? (疑問符)
40	64	@ (アットマーク)
41	65	A
42	66	B
43	67	C
44	68	D
45	69	E
46	70	F
47	71	G
48	72	H
49	73	I
4a	74	J
4b	75	K
4c	76	L
4d	77	M
4e	78	N
4f	79	O
50	80	P
51	81	Q
52	82	R
53	83	S
54	84	T
55	85	U
56	86	V
57	87	W
58	88	X
59	89	Y
5a	90	Z
5b	91	[(左/ブラケット)
5c	92	\ (バックスラッシュ)
5d	93] (右/閉じブラケット)





#SETUPE1

Enter Setup

H e x	Dec	記号
5 e	94	^ (キャレット/サーカムフレックス)
5f	95	_ (アンダースコア)
6 0	96	' (グレイヴ・アクセント)
6 1	97	a
6 2	98	b
6 3	99	c
6 4	100	d
6 5	101	e
6 6	102	f
6 7	103	g
6 8	104	h
6 9	105	i
6 a	106	j
6 b	107	k
6c	108	l
6 d	109	m
6 e	110	n
6f	111	o
7 0	112	p
7 1	113	q
7	114	r



#SETUPE0

Exit Setup

2		
7 3	115	s
7 4	116	t
7 5	117	u
7 6	118	v
7 7	119	w
7 8	120	x
7 9	121	y
7 a	122	z
7 b	123	{ (左括弧)
7c	124	(垂直線)
7 d	125	} (右括弧)
7 e	126	~ (チルト)
7f	127	DEL (Delete)





#SETUPE1

Enter Setup

Unicodeキーマップ

6E	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	7A	7B	7C	7D	7E	•	•	•		
01	02	03	04	05	06	07	08	09	0A	0B	0C	0D	0F	4B	50	55	5A	5F	64	69
10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	1A	1B	1C	1D	4C	51	56	5B	60	65	6A
1E	1F	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	2B					5C	61	66	
2C	2E	2F	30	31	32	33	34	35	36	37	39			53			5D	62	67	6C
3A	3B	3C	3D				3E	3F	38	40	4F	54	59	63	68					

アメリカ式キーボード (104キー)

6E	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	7A	7B	7C	7D	7E	•	•	•		
01	02	03	04	05	06	07	08	09	0A	0B	0C	0D	0F	4B	50	55	5A	5F	64	69
10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	1A	1B	1C	2B	4C	51	56	5B	60	65	6A
1E	1F	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	1D					5C	61	66	
2C	2D	2E	2F	30	31	32	33	34	35	36	37	39		53			5D	62	67	6C
3A	3B	3C	3D				3E	3F	38	40	4F	54	59	63	68					

ヨーロッパ式キーボード (105キー)



#SETUPE0

Exit Setup



#SETUPE1

Enter Setup



BUSICOM



#SETUPE0

Exit Setup